

岡山大学構内遺跡調査研究年報12

1994年度

1995年12月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山大学構内遺跡調査研究年報12

1994年度

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

1994年度は沖島地区において図書館建設予定地と北福利厚生施設建設予定地の発掘調査を実施しました。図書館予定地は調査面積が約1800m²におよぶこともあり、前年度末から調査を開始したものです。当地は文学部構内で1982年に行った発掘調査地点のすぐ東側にあたり、当時はその地点を小橋法目黒遺跡と呼んでいました。本学の建設工事にともなう本格的な発掘調査としては最初の事例となり、本センターでは現在その調査を沖島岡人遺跡第1次調査と位置づけています。1982年の調査地では農耕具などの木器を多く含む弥生時代の大溝を確認していましたが、今年度の図書館予定地においてはその延長部と考えられる大規模な溝のか、多くの時期にわたって重複する水田遺構なども調査することができました。

図書館の東側の北福利厚生施設予定地での調査は2ヵ月間の部分的な発掘で中断しましたが、弥生時代のやはり大規模な溝があることが判明し、図書館予定地の大溝との関連も考慮に入れて今後調査を進める必要が出てきました。

1994年度の報告書としては、1990年度に実施した2地点の調査成果を収録した『沖島岡大遺跡5』を刊行しました。各方面で広く活用されることを期待します。発掘調査がつづき出土遺物の整理や報告書刊行の作業がやや遅れぎみですが、重要な成果の公表を促進するよう今後とも努力するつもりです。発掘調査および報告書刊行等において、関係各位の一層のご協力・ご支援をお願いいたします。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

稻 田 孝 司

例　　言

- 1 本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1994年4月1日から1995年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成績をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
 - 1) 津島地区では、岡上座標第V座標系（X=-144,500m Y=-37,000m）を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に一分する（図11）。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（X=-149,800m Y=-37,400m）を起点とし、座標軸をN15°Eに据ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を用いている（図13）。
- 3 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡人遺跡」と総称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次番号で呼称し、「試掘調査」「立会調査」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、「試掘調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
- 7 本文・日次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 8 本文は岩崎志保・富樫孝志・光石鳴巳・山本悦世が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 9 鹿田地区と津島地区出土種子の分析を松谷恵子氏（東京大学総合資料館）に依頼し、その成果を附編として掲載した。
- 10 編集は福田孝司センター長の指導のもとに、岩崎が担当した。
- 11 本年報に掲載の津島地区的地形図は岡山発行の1/25000の地図を複製したものである。
- 12 調査・整理において以下の方々にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げる。

遠藤七都子、平井　勝、栗岡　灾、出宮徳尚、扇崎　由、本田光子、野久保隆

岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度

目 次

第1章 1994年度岡山大学構内遺跡調査報告	1
1 調査の概要	1
2 発掘調査	1
① 津島岡大遺跡第12次調査〈図書館予定地〉	1
② 津島岡大遺跡第13次調査〈福利厚生施設（北）予定地〉	10
3 試掘調査	11
4 立会調査	13
(1) 津島地区	13
(2) 鹿田地区	14
第2章 1994年度普及・研究・資料整理活動	20
1 資料整理	20
2 分析依頼	20
3 刊行物	20
4 調査員の活動	20
5 口誌抄	23
6 1994年度までの遺物保管状況	24
第3章 1994年度活動のまとめ	27
附 表	28
岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項	41
1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程	41
2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程	42
3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程	43
4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程	43
1994年度埋蔵文化財調査研究センター組織	45
1 センター組織一覧	45
2 管理委員会	45
3 運営委員会	46
附 錄	47

挿 図 日 次

図1	津島岡大第12・13次調査 津島北地区調査地点位置図	1
図2	津島岡大第12次調査 土層柱状図	3
図3	津島岡大第12次調査 繩文時代～古墳時代遺構全体図	4
図4	津島岡大第12次調査 調査区西壁溝断面図	6
図5	津島岡大第12次調査 出土遺物実測図	7
図6	津島岡大第12次調査 古代～中世遺構全体図	8
図7	農学部動物実験施設予定地 津島南地区調査地点位置図	11
図8	農学部動物実験施設予定地 土層柱状図	12
図9	調査⑨土層柱状図	13
図10	調査⑩土層断面図	15
図11	津島地区全体図	17
図12	今年度の調査【1】津島地区	18
図13	今年度の調査【2】鹿田地区	19
図14	1994年度までの調査地点【1】津島地区	39
図15	1994年度までの調査地点【2】鹿田地区	40

写 真 日 次

写真 1	津島岡大第12次調査 13層上面水田柱跡	5
写真 2	津島岡大第12次調査 12層上面水田柱跡	5
写真 3	津島岡大第12次調査 11層検出溝（溝30ほか）	5
写真 4	津島岡大第12次調査 溝30木製品出土状況	6
写真 5	津島岡大第12次調査 溝30出土木製品	6
写真 6	農学部動物実験施設 黒色土の落ちが確認された土層断面	12
写真 7	構内遺跡出土試料の灰像写真	49

表 日 次

表 1	1994年度調査一覧	16
表 2	埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要	25
附表 1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	28
附表 2	1993年度以前の構内主要調査（1983～1993年度）	29
附表 2-(1)	発掘調査	29
附表 2-(2)	試掘調査	30
附表 2-(3)	立会調査	32
附表 3	埋蔵文化財調査室刊行物	37
附表 4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	37

第1章 1994年度岡山大学構内遺跡調査報告

1 調査の概要

当センターにおいては大学構内における掘削を伴う工事に際し、事務局施設部企画課を通じて事務手続きを行ったうえで、発掘調査・試掘調査・立会調査にわけて調査を実施している。

これまでのところ、その調査の対象は津島地区と鹿田地区とが中心になっている。特に鹿田地区は周知の遺跡（鹿田遺跡）として、掘削を伴う工事に際し、届出を提出した上で対応を行っている。また、津島地区においても、新たな遺跡の確認が進んでいることから、遺跡名称を「津島岡大遺跡」と総称し、届出の有無にかかわらず、少なくとも立会調査を実施している。

1994年度は、発掘調査2件（津島地区2件）、試掘調査1件（津島地区）、立会調査18件（津島地区14件、鹿田地区4件）を実施した。そのうち発掘調査・試掘調査については本章でその概要を述べ、立会調査の詳細については表1（p.16）に記す。
（岩崎）

2 発掘調査

①津島岡大遺跡第12次調査（図書館建設予定地、津島北AV～AW・13～14区）

1. 調査の経過（図1）

本調査地点は1990年2～3月に既に試掘調査が実施されており、その結果を受けて1993年度末～1994年度に発掘調査を行うこととなった。発掘調査に際しては、予算の関係上、予定地全域を一括して調査することは不可能であったため、作業上は非常に不都合ではあったが、調査区を二分割し、まずは北側約5/6（北区）の調査を開始し、南側約1/6（南区）は予算がつき次第早急に調査に入り、なるべく早期に分割調査を解消することとした。諸々の工事は2月から始まり、発掘調査は3月から本格化した。北区の調査が順調に進む中、南区の調査開始は予定外に遅れ、調査に入れたのは10月も後半であった。この段階では、調査を全面に広げることは逆に作業能率の低下を招くことから、予定を変更して北区終了後に南区の調査に入ることとし、完全に分割した調査



1. 第1次調査地点(NP1 1982年度)
2. 第11次調査地点(総合情報処理センター 1993年度)
3. 第12次調査地点(附属図書館 今年度)
4. 第13次調査地点(福利厚生施設北 今年度)

図1 津島北地区調査地点位置図
(縮尺1/5,000)

となった。南北の調査終了後、11月下旬で発掘調査は終了した。調査期間は1994年2月9日～1994年11月30日で、調査員は1993年度の3月は2名、1994年度は4月～10月を3～4名、調査区が南北のみとなった11月は2名が担当した。調査面積は全体で約1770m²である。

9月17日には弥生時代の遺構・遺物を中心とした現地説明会を実施した。

2. 層序と地形

層序(図2)

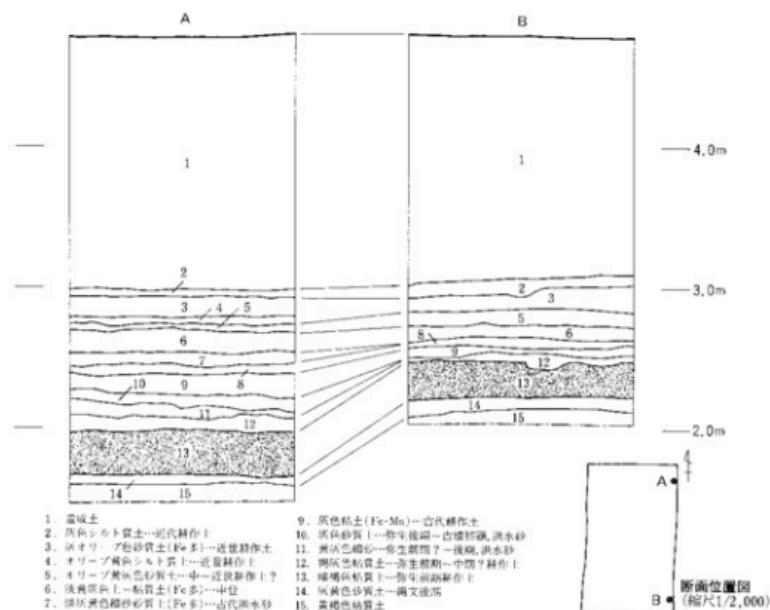
現地表は標高4.7～4.8m(以下高さは標高)を測る。1層は1907年～1908年の旧陸軍屯営地建設に伴う造成土である。2層は青灰色粘土あるいはシルト層で近代耕作土層である。上面は約3.0mにある。3・4層はオリーブ黄色系の砂質土で近世の耕作土層とみられる。上面は3層が2.9m～2.95m、4層が2.8～2.85mにある。5層は上層と同様のオリーブ黄灰色砂質土であるが、形成時期は出土遺物の状態から中世～近世が想定される。耕作土層と考えられる。上面高は2.75mである。6層は粘性を帯びる黄褐色系の土である。その中にやや砂質を帯びる上層と粘性の強い下層とに縦分され、下層は耕作土と判断される。遺物から中世の時期が考えられる。上面は2.7mにある。以上の層はほぼ水平堆積を示す。

7・8層は黄灰色系の土層で出土遺物から古代の時期が考えられる。7層は砂質土で砂の目は粗く洪沢砂の可能性が強い。南北区までは堆積していない。8層は粘質土で耕作土層であろう。上面の高さは、7層は北区で2.5～2.6m、8層は北区で約2.5m、南北区で2.7mを測る。9層は8層に類似する灰色粘土で耕作土であると考えられる。遺物は希薄であるが南北区を中心に古墳時代の須恵器が出上していることから、古墳時代後期の可能性が求められる。上面高は北区で2.4m、南北区で2.6m前後を示す。これらの層は南北で15cm前後の高低差を有す。

10・11層は赤灰色の砂～砂質土で洪沢砂である。北区では明瞭な堆積を見せるが、南北に向かって薄くなり南端付近では認められない。出土遺物あるいは遺構との関係から、11層は弥生時代前期～中期に、10層は古墳時代初頭～前期に形成された可能性が考えられる。10層上面は北区で2.2m前後、11層は約2.15mを測る。12層は褐灰色系の粘質土で耕作土である。弥生時代前期の範囲に含まれる可能性が高い。上面は北区で2.1m、南北区で2.55mにある。13層は暗褐色の粘質土で、いわゆる「黒色土」とされる土層である。下半に向かって粘性を強める。突堤文～弥生前期の時期と考えられている。上面は北区で2.0m、南北区で2.4mである。弥生時代の上層地盤は南北で40cm以上の高低差を有す。

14層は灰黄色砂質土である。従来の土層関係から縄文時代後期の時期が想定される。上面は北区で1.65m、南北区で2.1～2.2mにある。15層は黄褐色粘質土で基盤層と判断される。上面は北区で1.6m、南北区で2.05～2.2mを測る。南北の高低差はいずれも45～60cmを示す。

地形



本地点は微高地頂部と低湿地部の中間に位置する。南側に想定される河岸の北側の自然堤防上から一段下がった位置にあたり、いわゆる「黒色土」が発達する比較的安定した地点と言えるが、時代を追っていくつかの変遷が認められる。

縄文時代～弥生時代前期の時期には南側と北側でかなりの高低差が存在する。その差は最大60cmにも達するが、平均すると45～50cm程度であろうか。この差がある程度解消されるのが、弥生時代前期水田以降の洪水砂の低地部分への堆積であり、古墳時代後期段階の整地（9層）によってその差は15～20cm程度になっている。その後も各時期に造成がなされたと考えられるが、土層観察から顕著なものは中世後半のものである（6層）。この造成によって地形はほとんど平坦なものと変化し、近代の大造成（1層）に至るのである。その中で奈良時代あるいは中世前半の遺物は現状では確認されていない。何らかの理由で断絶があったことが想定される。

3. 検出した遺構・遺物（図3～6）

縄文時代（14層）

焼土集中部7箇所・土坑7基・ピット10箇所が検出された（図3）。焼土は14層掘り下げ段階にその多くが姿を現した。また、土坑・ピットの掘り方は調査区断面から14層上面まで上が

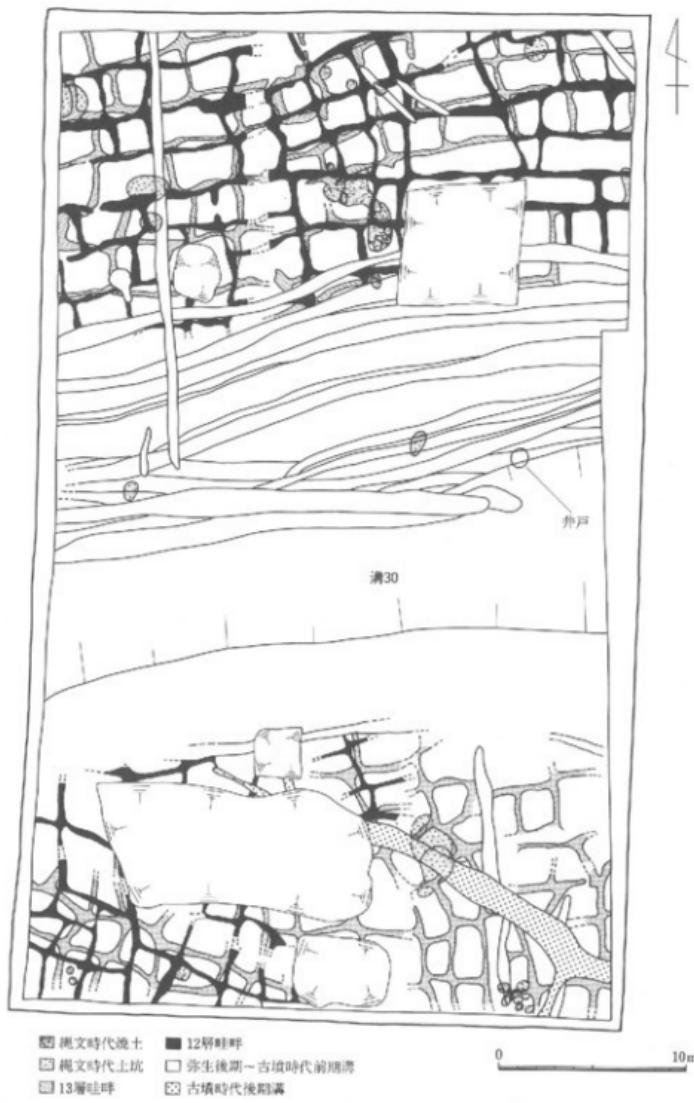


図3 桜文時代～古墳時代遺構全体図（縮尺1/300）

ることが確認されており、14層上面での活動を予想することができる。焼土集中部は径1~30cm前後の焼土が集中あるいは散在し、いずれも破壊後の再堆積の状況を示す。北区の若干高い位置に分布する傾向がある。土坑は径2m前後の梢円形を呈し、大半は炭化物を多少含む程度で焼土を含む例は少ない。ピットは特に調査区の南東隅のものが特徴的で、多量の炭化物を含み、複雑なる切り合い関係をもつ。この3種類の遺構が有機的関係を有し、何らかの作業が行われていたことが予想される。これまでの調査資料から後期の時期が考えられる。

弥生時代～古墳時代（9～13層）

検出した遺構は水田畦畔2面（12・13層）、溝24条（9～11層）、井戸1基（11層）、土坑1基（10層）である（図3）。各遺構面ごとに説明しよう。

12・13層上面では小區画の水田畦畔が検出された（写真1・2）。特に12層の畦畔は11層（洪水砂）に覆われ、残存状況は北側で特に良好であった。ただし、地形が高くなる南側では両畦畔ともやや不明瞭となる。両畦畔はその位置を少しづつずらしながらも大きな変化は無く、近接した利用時期が考えられる。突帯文・弥生前期土器の細片が僅かに出土しており、その時期を示す。

11層上面では東西方向の溝11条と井戸1基が検出された（写真3）。溝は幅約10m・深さ1.5m前後を有す溝1条（溝30）と幅0.5~1m・深さ20~40cm前後の中小規模の溝10条とに分けられる。後者の溝は溝30の北側にはほぼ併行あるいは上部に重複して形成されている。溝間の複雑な切り合いから度

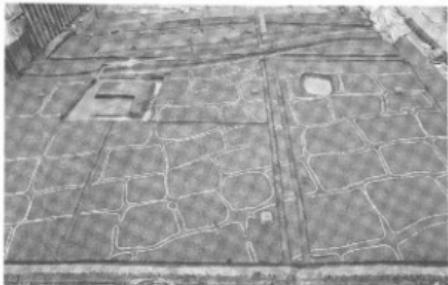


写真1 13層上面水田畦畔（北より）



写真2 12層上面水田畦畔（東より）



写真3 11層検出溝（溝30ほか）（南より）

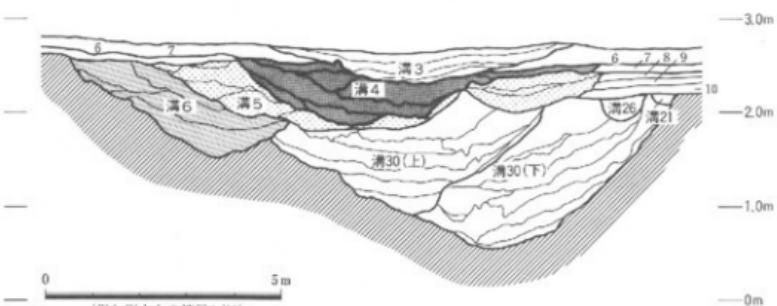


図4 調査区西壁溝断面図 (縮尺1/30)

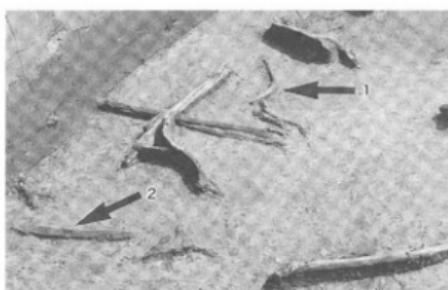


写真4 溝30木製品出土状況 1. 曲柄 2. 鍛先

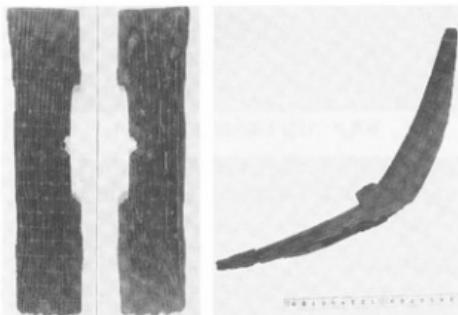


写真5 溝30出土木製品

左：盾（縮尺約1/6） 右：曲柄（縮尺約1/5）

溝と埋土の点でも近似する。他の溝は幅10~50cm、深さ5~30cm程度で、規模あるいは埋土の点で東西方向のものとは区別される。東西方向の溝は古墳時代初頭、それ以外の溝はやや新しい段階が考えられる。土坑は径1m前後の円形に長さ90cm程度の突出部が付くような形状を示

重なる掘り返し予想される。時期は溝30との関係から後期の範囲で考えたい。溝30にも新旧の重複が認められる（図5）。

遺物は溝30に集中し、土器・木製品・石器が認められた（写真4）。木製品の中には農具（鋤）・武具（盾）なども含まれる。所属時期は出土土器から後期前半に使用され、完全に埋没するのは古墳時代初頭と考えられる。井戸は径1m前後の円形を呈し、深さは約0.9mを測る。溝30の下で検出されたことから後期初頭以前といえよう。

10層上面では溝12条と土坑1基が検出された。溝は方向性から東西方向・南北方向・北西—南東方向の三群に分けられる。東西方向の溝は幅1m前後、深さ20~50cm程度で、11層上面の

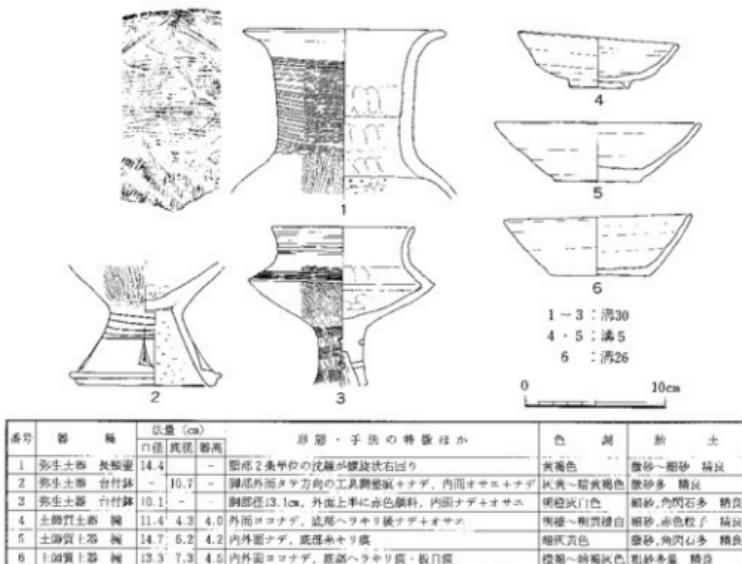


図5 出土遺物実測図 (縮尺1/4)

す。埋土中に焼土・炭化物が厚く堆積する。時期は古墳時代前期の範囲で考えたい。

9層上面では幅1~1.5m、深さ20~30cmの溝1条が検出された。古墳時代後期と考えられる。

古代(7・8層)

溝4条と水田跡跡および耕作痕が検出された(図4)。溝は東西方向の溝と北西一南東方向の溝がある。前者は7層で1条(溝4)、8層で2条(溝5・6)が確認されている。溝4~6は重複する溝で、幅10m前後・深さ0.6~0.7mを測り、特に深い部分では1m近い数値を示す大規模なものである。溝5には北側に副水路が付随している。溝4の埋土は粘質土が主体であるが、溝5・6は全体的に砂質が強い特徴をもつ。後者は8層上面の溝で、幅1.2m・深さ50cm前後の規模であるが、東西溝との関係は不明である。遺物は溝5・6に集中し、平安時代後半の土器を多量に出土した。水田跡跡は溝の北側で一部検出したが残存状況は良くない。

中世(5~6層)

6層上面において東西方向に平行して走る溝2条を検出した(図4)。南側の溝(溝3)は幅6.5m前後、深さ30cm前後の幅広で浅い溝である(図5)。古代の溝の位置を踏襲し重複している。北側の溝は南の溝から北へ2~3mに位置する。幅1~2m、深さ10cm程度で非常に浅い。いずれも遺物は少ない。

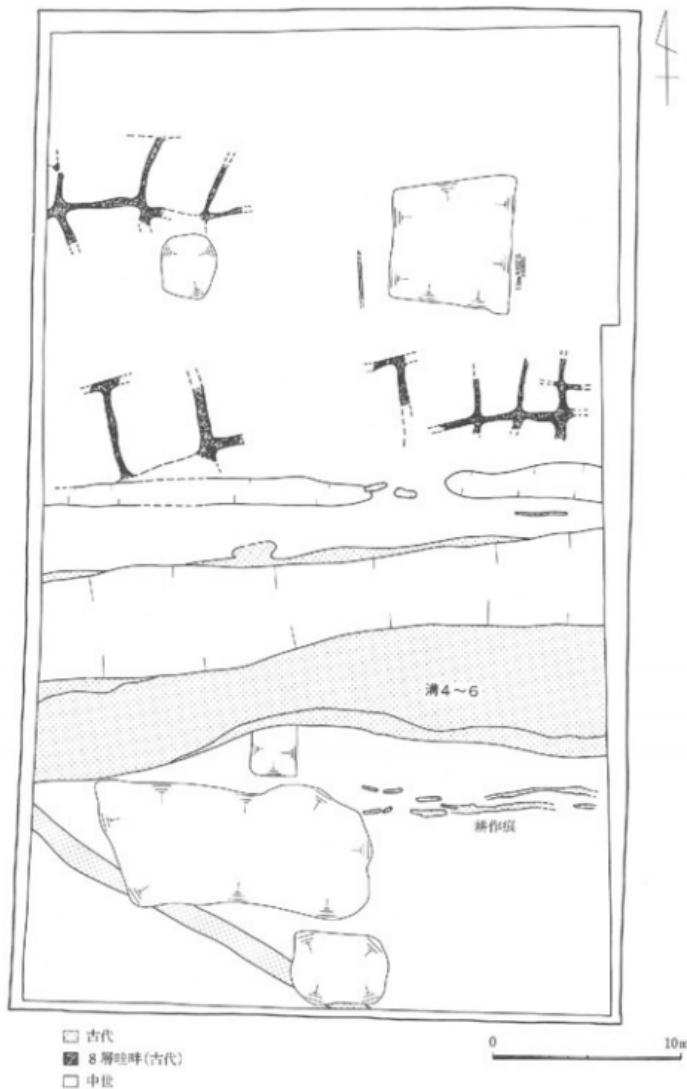


図6 古代～中世遺構全体図 (縮尺1/300)

近世・近代（2～4層）

近世では3層上面で溝1条が調査された。中世の北側の溝の位置に重複する。

近代では2層上面では畑の歴・道・石橋、溝1条（水利施設）、野窓9基、土坑2基、トロッコ軌道などが認められた。野窓は2箇所に配され、それぞれ敷基の重複が確認された。溝は近世の溝を踏襲して利用されており、樋門が数カ所に残存していた。

4. 調査成果

本地点は南側に想定される河道の自然堤防上から一段下がった位置にあたる。今回の調査ではこうした微高地頂部と低湿地部との間の遺跡の状態を掴むことができた。地形の変遷からは、南北でかなりの高低差があった弥生時代までの状況が、古墳時代後期の造成そして中世後半における規模の大きな造成によって、ほぼ水平な現在の地形に到達したことが確認された。

各時代の調査では、縄文時代では焼土集中部・土坑・炭化物包含ビットの分布状況を地形と絡めて調査することができ、微高地上での活動を考える上で資料の蓄積が進んだ。弥生時代の遺構では、水田畔そして大規模な溝を含む病群の調査が際だっている。今回検出された畔群はその保存状況が良好であったため、地形に沿って東西畔群を中心据え、その間をやや小振りな畔群で仕切るという形態を認めることができた。また、水田が弥生前期段階に既に津島地区一帯に広がっていた可能性をますます強める結果でもあった。このように突堤文期～弥生時代前期に始まる水田經營形態を考える上で貴重な調査といえよう。溝の調査では、特に後期前半に属する大規模な溝30が注目される。古代の条里の坪境溝に匹敵する規模を有する大規模な溝であり、本地域における弥生時代後期の集落構造を考える上で重要な遺構である。現段階で確認されている同時期の遺跡は、最も近いもので約300m離れた津島岡大遺跡第10次調査地点（保健管理センター）があるのみで、本地点に隣接しては認められていない。両地点の関係あるいはその間における遺跡の広がりの問題、溝自体の性格、集落の性格など新たな問題を提起したと言える。周辺部での今後の調査が期待される。古代の溝ではこれまでの調査成果を裏付けるような状況が示された。ただ、ここに至って、本地点以東で指向されていたほぼ東西方向から、その方向を南に振る傾向を見せ始めている点は、条里がどこまで及ぶかという問題点に関わる可能性があろう。本調査の北西方向は地形的に低湿地の様相を呈することが予想されている点も示唆的である。

なお、本調査の資料は現在整理途上であるため、本報告内容は暫定的のものである。（山本）

- 注（1）『岡山大学沖島北地区小橋法日川（AW14区）の発掘調査』『岡山大学構内遺跡調査研究年報』
 1 1985 岡山大学埋蔵文化財調査室
 （2）『岡山大学構内遺跡調査研究年報』7 18～20頁 1990 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
 （3）『岡山大学構内遺跡調査研究年報』11 9～13頁 1995 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

②津島岡大遺跡第13次調査（福利厚生施設（北）予定地、津島北AW～AX・11～12区）

1. 調査の経過

この調査は福利厚生施設北棟の新營に伴うもので、1990年に行われた当該地内内の試掘調査の成果によれば、当該地の大部分は微高地上に位置し、弥生時代から古墳時代にかけての溝を数条検出している。そうした試掘時の見解を受けて、当初は4カ月あまりの調査期間が見込まれており、1994年度中に約2カ月分に相当する予算措置が講じられたことにより、調査に着手することになった。

調査区内の大部分が微高地上に位置するという見通しのもとに着手した調査であったが、後述するように調査途上に調査区西側部分に設けたトレンチでの所見から、調査区北西部から概ね南東に向けて弥生時代の溝が検出される可能性が高くなり、これとともに調査期間の増大は必至となった。同時に当初に予算措置のなされた2カ月を超える期間分の予算措置の目安が立たないという事態となり、当センターと人文学事務局の担当部課との協議がもたらされた。その結果、調査は当初の予算の範囲内、つまり2カ月をもって一旦中断し、年度が改まるのを待つ再開する運びとなった。

以上のような経過から、1994年度の発掘調査期間は1994年10月6日から11月31日までである。対象面積は816m²で、調査員2名が担当した。以下に、今年度分の調査の概要を報告する。

2. 今年度調査の概要

1994年度の調査は概ね近世から近代にかけての耕作もしくは造成土にあたる2～6層の調査を行ない、調査区全面で7層上面を検出した状態で中断した。このうち、2・3層の上面でそれぞれ耕作遺構を検出している。

2層上面の耕作面は南北方向の畝を形成するもので、調査区北西隅の一部を除き、ほぼ全面で検出している。畝列以外には南西隅近くで野寺状の浅い土坑があり、北西隅近くでは畑面に焼土と木炭の集中する箇所を認めた。また、この耕作遺構とともに、調査区東部には3層上面から掘り込み、拳大の礫を充填した暗渠が設けられている。これは今次調査区の北に位置する11次調査地点において認められたものと連続する位置関係にあり、同一と考えて良い。

3層上面での耕作面は東西方向の畝列を形成する。本来3層上面の段階では東側が一段高くなっていたようだ、調査区の東側3分の1あたりは2層の耕作面形成により削平がおよび、駐畔は検出されていない。

4～6層は近世に帰属すると思われる。概ね水平の堆積を見せるが、7層の上面が幾分南北にむけて低く傾斜することにより、これらの層群も西側が幾分厚くなる傾向にある。4～7層については遺構は検出できなかった。

調査の中止により、これ以下の各層については側溝や先行トレンチの所見による他ない。調

査区の西半においては古代・中世の土層が40cm余り堆積するが、東半では層厚を減じ、この下で検出される弥生時代、あるいは古墳時代の遺構面は東から西に低くなる傾斜をもつことがうかがえる。

また調査区西端部では、概ね北西から南東へ向かう形で、弥生時代から古墳時代初頭にかけての大溝が検出されることがほぼ確実視される。これは調査区中央の東西壁に沿う形で設けた先行トレンチと、同じく南壁に沿った側溝とで行なった深掘りの結果によるもので、調査区中央東西壁の部分では古墳時代初頭の土器窯の口縁部などの破片が、また南の側溝部では枕先端部と思われる木製品が出上っている。現段階でこの大溝の位置や規模は不明であるが、第12次調査地点で検出された溝に連続すると推定され、次年度の調査に期待がもたれる。（光石）

3 試掘調査

本年度は津島地区において1件の試掘調査を実施した。以下に農学部動物実験施設建設に伴う調査の概要を記す。

①農学部動物実験施設予定地（津島南BD20区）

調査に至る経過

当該施設の新営は1988年度に計画が成され、同年度に試掘調査が実施されている。今年度に至って建設計画が具体化し、改めて調査の方針を協議した。しかし、建物建設による掘削深度が1m程度であることから、造成土内に留まることはほぼ確定であり、また東側に隣接する第8次調査A地点の調査所見から、当建設予定地が遺構・遺物とともに分布が希薄な地域にあると予測された。このため、上述の試掘の際に調査の及ばなかった区域における旧地形や土層の堆積状況の確認を主眼に、建設予定地の北西部分について改めて試掘調査を行なうこととしたものである。調査期間は1995年3月13・14日で、調査員2名がこれを担当し、翌15日に埋め戻しまで完了している。

調査の概要（図7・8）

調査区とした箇所は現地表が南側に比べ50cm程度低くなっている。発掘調査は重機によって造成土を除いた後、2m四方を調査区域として人力による掘り下げを行なった。その結果、40cmあまり掘り下げた段階で黒褐色土を検出した。さらに調査区の北側と西側についてトレンチを設けて掘り下げて黄褐色粗砂の堆積を認めたが、無遺物であり、調査を終了することとした。

この調査区で観察できる土層の堆積状況は、概ね過去



図7 津島南地区調査地点位置図
(縮尺1/5,000)

の試掘や第8次調査A地点と同様である。このうち2層上面では径80cmあまり、深さ40cm程度のほぼ円形の土坑を検出した。内部は造成土が充填しており、第8次調査A地点で検出したものと同様、旧陸軍駐屯地の建物の柱穴と思われる。

以下、3～5層が近世、6層が中世、7層は弥生～古墳時代に概ね対応すると思われるが、遺構は認められず、出土遺物も乏しい上に細片ばかりのため、他地点での所見に対応させる他に帰属時期を明確にし難い。

8層は、津島岡大遺跡では一般的に縄文時代晚期から弥生時代初頭にかけての遺物を包含する、いわゆる黒色土に相当する。この上面で西から東へむけてやや低くなる段を検出しており、水田畦畔が検出される可能性も考えられる。しかし、小面積での検出は困難であり、遺構面の無用の破壊を避け、これ以上の掘り下げを行なわなかった。なお、8層上面で縄文系の土器片1片が出土している。

(光石)

注(1) 安井宣也「農学部動物実験施設及び英学部遺伝子実験施設予定地」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』6, 1989, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

(2) 富権孝志・山本悦世「A地点の調査」『津島岡大遺跡』5, 1995, 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

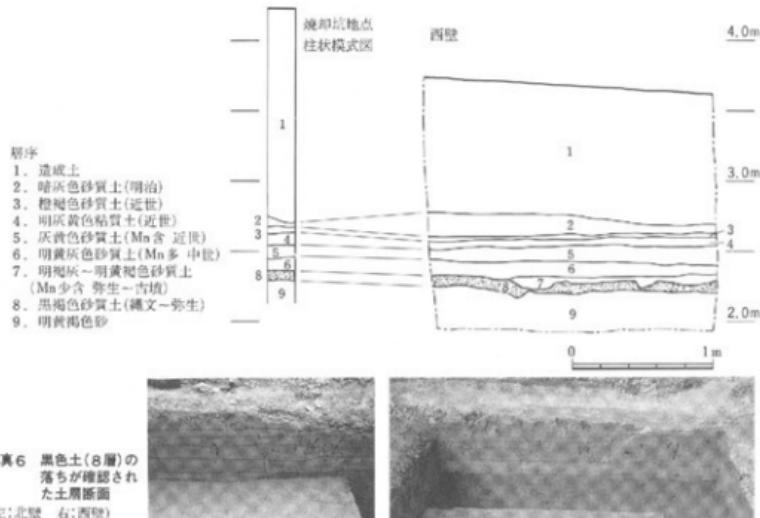


図8 土層柱状図 (縮尺1/40)

写真6 黒色土(8層)の
落ちが確認され
た土層断面
(左:北壁 右:西壁)

4 立会調査

(1) 津島地区(図9, 表1)

1994年度における津島地区の立会調査は事業別にみると14件で、例年に比べるとかなり少なかった。多くは造成土内で終了したが、調査⑩では津島南地区の陸上競技場で数カ所を掘削し、旧地形の復元に有効なデータを収集することができた。

①陸上競技場照明塔設置に伴う立会調査(調査時:津島南BD・BF07~09)

津島南地区の東側は陸上競技場の他、野球場、サッカー場などの競技場があり、これまでこの地区が調査の対象となつたことは少なく、遺跡の状況についても不明な点が多い。今回、陸上競技場の照明塔設置に伴う立会調査で、照明塔設置地点に隣接したアース板の埋設地点で断面観察を行つた。工事掘削が行われたのは図に示した6カ所である。このうちA地点については立会前に掘削が終つたため、B~F地点の5カ所について報告する。

層序

1層は造成土で厚さは1m前後である。2層は明治時代の耕作土である。3・4層は色調から近世の耕作土と思われる。5・6層は灰色の粘質土で中世の耕作土であろう。7・8層は5・6層からの鉄分の沈着で黄色味を帯びた層で、古代～古墳時代の耕作土と思われる。9層は有機物を多く含み、津島一帯に分布する黒色土である。基本土層はB~F地点ではほぼ共通している。C地点では地下2mまでの断面観察では黒色土が認められなかつた。しかし隣接した

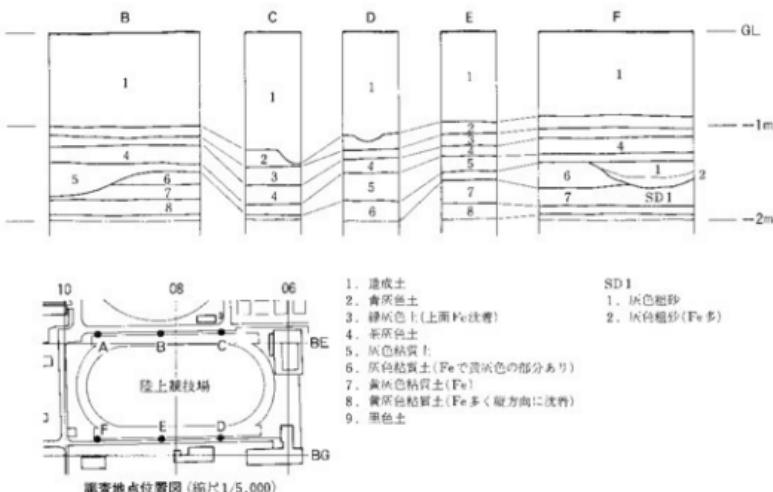


図9 調査⑩ 土層柱状図(縮尺1/40)

地点で照明塔設置のために、径30cmの円柱状に掘り下げる機械を使って掘削した際、深度は不明ながら黒色土が認められたことから、さらに深い所に黒色土が存在することは確実である。D地点では同様の機械による地図10mの掘削でも黒色土は確認されなかったことから、この部分には黒色土が存在しないと考えられる。

以上の所見から、C地点では他の地点よりも深い所で黒色土が認められ、ここの中地形は谷状に落ち込んでいることが考えられる。また、D地点では黒色土が存在しないが、本来存在しない地形にあたっているのか、後世の削平を受けているのか、今回の所見からは明らかでない。他の地点では各層がほぼ同レベルで認められることから、比較的安定した水平堆積層が広がっていると推定される。遺構はF地点で中世と思われる溝の断面が認められた。また、各調査地点で湧水が認められた。

そのほか、前述の農学部動物実験施設予定地試掘調査の際、調査区の南側に焼却坑が掘削されていたことがわかった。この件については全く連絡を受けておらず、事務局より当該部局への歎重注意を行った上で、事後ではあったが立会調査（調査⑤）として対応することとした。上層観察の結果は図8に示したとおりである。

（2）鹿田地区（図10、表1）

鹿田地区では事業別にみて4件の立会調査を行った。調査⑤では造成土以下の土層の観察ができ、以下に報告するように重要な所見が得られた。

①医学部グランド南側用水護岸改修工事に伴う立会調査（調査⑤：鹿田DG60・61区）

調査の経過

鹿田地区では、第1次・第5次調査の結果、キャンパス北側、現在の医学部附属病院の外来診療棟付近に微高地があり、亦生時代中期以降の集落が発達していたことが明らかにされている。一方、キャンパスの南側では、3次調査の際にキャンパスの南東部を調査した結果、微高地上に古代木以降の集落が確認された。これに対しキャンパスの南西部は調査された例がなく、この方面での遺跡の広がりが不明であった。

今回、鹿田キャンパスの南端でコンクリート護岸を新設する工事があり、事前に石垣を除去した際に、調査員1名が立会調査を行い、造成土以下の土層断面を観察することができた。現場は到着後、一見して多数の遺構がかかっていると判断できたため、その記載に重点を置いた。そして、次のような所見が得られた。

層序

断面には多数の遺構がかかっており、西端でからうじて基本層序を観察できた。現地表面の標高は2.15m程度である。2層は明治時代の上層であろう。上面に凹凸が認められることから、その上面は湿地状であったと考えられる。3・4層は類似した層で近世の耕作土と思われる。

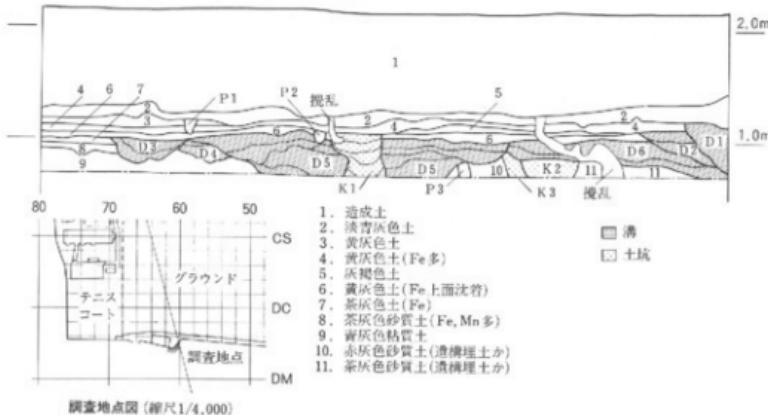


図10 調査⑤土層断面図 (縮尺1/50)

5層は部分的に認められたのみである。6層は上面に鉄分の沈着が認められる。7層は鉄分によってやや赤くなっている。8層はマンガンが多く含まれるのが特徴で、鹿田遺跡3次調査で中世の遺構を多数検出した層に対比される可能性がある。9層は上記の層とは明瞭に区別できる青灰色粘質土である。これは現在の用水面付近にあたっているため、水の影響でグライ化している可能性がある。9層以下は用水の水面下で観察できない。また5層以下の時期については明確ではない。10・11層は遺構埋土の可能性が高い。

今回の断面所見から旧地形を復元することは困難であるが、遺構密度が高いことから微高地部分にあたっていると考えられる。

遺構と遺物

明確に確認した遺構とその掘り込み面は次の通りである。

3層上面 ピット1基、4層上面 溝1条（これは土坑の可能性もある。）、6層上面 溝1条・ピット1基・土坑1基、7層上面 溝4条

これらの遺構に切られて掘り込み面が不明の遺構として土坑2基、ピット1基がある。断面で明確に確認できたのは以上であるが、7層以下では他にもさらに多くの遺構がかかっている可能性が高い。遺物は土坑K2、K3から古代の竪穴が出土している。

まとめ

今回は立会調査で、しかも断面の観察のみにとどまり、また、現在の用水の水面下の土層観察はできなかったが、これまで調査されていない鹿田キャンバスの南西部にも濃密に遺構が存在することが明らかとなった。今後の調査で注意する必要がある。

(富樫)

表1 1994年度調査一覧

番号	種類	調査地区	所属	調査名称	調査期間	掘削深度 (m)	備考
1	発掘	津島北 AV~AW13~14	図書館		4.1~11.30	2.8~3.3	調査面積1770m ² 縄文時代上灰、弥生~古墳時代溝、太田駁跡、古代溝、水田駁跡、中世溝はか。 (津品岡大遺跡第12次調査)
2	発掘	津島北 AW~AV11~12	少	福利厚生施設	10.6~11.30	1.6~1.8	調査面積816m ² 近代耕作面、1995年度に耕続 (津品岡大遺跡第13次調査)
3	試掘	津島南 B020	農	動物実験施設	'95.3.13~14	1.8~2.0	GL 1.4mで黒色土、縄文土層 1片
4	立会	津島南 BB13~BC14	事	樹木移植	4.1	0.7	造成土内
5	"	農田 B080~82	医	護岸改修	4.11~13	1.5	遺構多数
6	"	津島北 BA06	工	校舎改修電気設備工事	4.22	0.9~1.1	造成土内
7	"	津島北 AV11	情	工事用スロープ設置	4.28	1.2	明治帯上面、造成土1.2m
8	"	津島北 AU11	情	電柱設置	5.13	1.1	造成土内
9	"	津島南 B007~09 BP07~09	事	陸上競技場照灯塔設置	5.16~6.7	0.85~2.0	造成土+0.95~1.20m、一窓径 0.8mで深度10mまで掘削
10	"	農田 AU22~23 AN22~23 AY21~23 AZ19~23 BB19~23 BC19~23~24 B023~24	医	病院差路新設工事	8.9~10.29~30	0.4	造成土内
11	"	津島北 AU04~05 AU12~14	事	津島環境整備(北辺駐車場)	6.16~30 7.13~15	0.6	造成土内
12	"	津島北 AW07	I	電気電子機器~精査応用化学機 外構	7.18~19	0.95~1.45	近世1枚目まで 造成土1.2m
13	"	津島北 AV10~AW10 AU11	情	総合情報処理センター新宮 窓氷工事	7.21~22~27 8.1	2.3	近世構1本 GL 1.7mに黒色土
14	"	津島北 AW11~AX11	情	情報処理センター水銀灯設置	7.29	0.6	造成土内
15	"	津島北 AV14	事	津島地区環境整備(緊急)	8.2	1.0~1.2	造成土内
16	"	農田 AB07~AN07	医	歴史部付属病院駐車場スロー グ設置	2.6	0.4~0.8	造成土内
17	"	農田 CK57~61 CM57~58	医	消防署設置に伴う行帯工事	2.15	0.45	造成土内
18	"	津島北 AZ08	造	ヘリウム液化装置設置	3.2	1.3	明治~近世層まで 造成土1m
19	"	津島北 AV08	工	ボイラー室給水管破裂修理	3.14	1.5	既工事内
20	"	津島南 B020	農	農学部施却灰	3.14	2.2	GL~1.9mに黒色土
21	"	津島南 AU05~AV05	事	地域学習センター改修電気工 事	3.20	1.1	明治層上面まで



図11 津島地区全体図 (縮尺1/15,000)

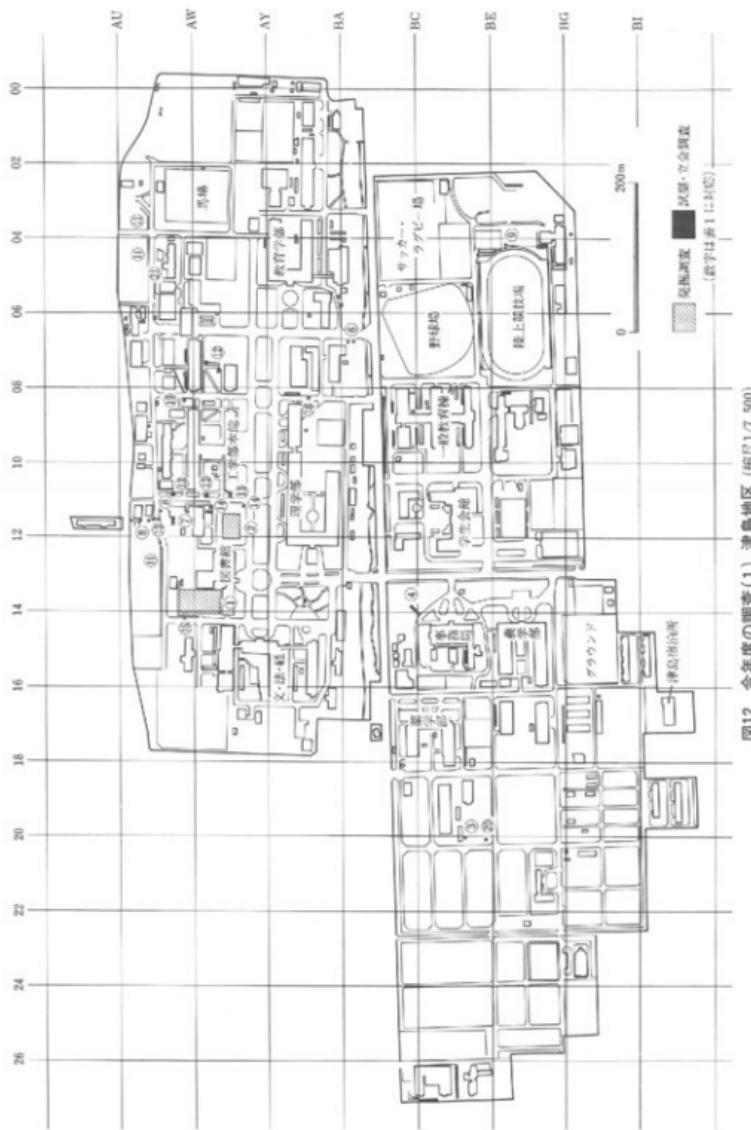


図12 今年度の調査(1) 津島地区(縮尺1/7,500)

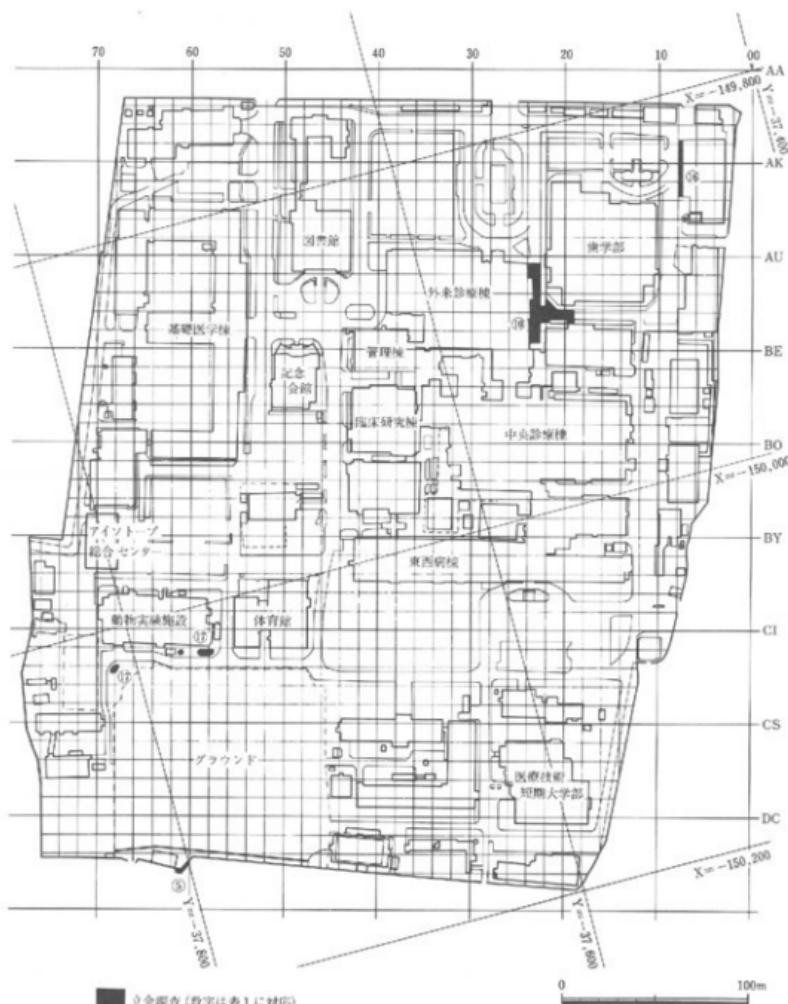


図13 今年度の調査(2) 鹿田地区 (縮尺1/3,000)

第2章 1994年度普及・研究・資料整理活動

1 資料整理

本年度は次の6件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 津島岡大遺跡第6次調査（工学部生物応用工学科棟）
報告書作成
- ② 津島岡大遺跡第7次調査（工学部情報工学科棟）
報告書作成
- ③ 麓田遺跡第6次調査（アイソトープ総合センター）
出土遺物の分類・復元・実測、遺構のトレース
- ④ 津島岡大遺跡第8次調査（遺伝子実験施設）
報告書刊行
- ⑤ 津島岡大遺跡第9次調査（工学部生体機能応用工学科棟）
出土種子の洗浄・選別
- ⑥ 津島岡大遺跡第10次調査（保健管理センター）
遺物注記・一部実測・写真撮影

2 分析依頼

- ① 津島岡大遺跡第6・7次調査出土種子の分析…岡山大学農学部 沖 陽子

3 刊行物

- ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第12号 1994年10月 発行
- ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第11号 1995年2月 発行
- ③ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第13号 1995年3月 発行
- ④ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第8冊 1995年3月 発行

なお1994年度までの刊行物については附表3・4で一覧として掲載している。

4 調査員の活動

- (1) 資料収集活動

阿部芳郎

絹文上器資料の実査：高知県埋蔵文化財センター・高知県本山町教育委員会

岩崎志保

中国漢墓関係文献資料収集

宮樋孝志

黒曜石原石採集：長野・静岡県

尖頭器石器群の見学：大和市教育委員会・相模原市教育委員会

松木武彦

北部九州地方の古墳時代武器・武具資料収集

光石鳴巳

瀬戸内地域における旧石器（ナイフ形石器・細石刃文化）資料収集

近畿・中国地方の縄文時代石器文化資料収集

山本悦世

古代の土器資料収集：岡山市教育委員会・岡山県御津町教育委員会・岡山県古代吉備文化財センター

(2) 学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（4月），日本考古学協会大会（5月），中四国縄文研究会（6月）

岩崎志保

考古学研究会総会（4月），日本考古学協会大会（5月），日本中国考古学会総会（9月）

宮樋孝志

考古学研究会総会（4月），中・四国旧石器文化談話会（9月）

松木武彦

考古学研究会総会（4月），日本考古学協会大会（5月），文化財保存全国協議会大会（6月），埋蔵文化財研究集会（8月・1月）

光石鳴巳

考古学研究会総会（4月），文化財科学会大会（6月），中・四国旧石器文化談話会（9月），日本考古学協会大会・近畿旧石器交流会（10月），東北日本の旧石器文化を語る会（12月）

山本悦世

考古学研究会総会（4月），中四国縄文研究会（6月），古代の土器検討会（10月），日本考古学協会大会（10月），中世土器研究集会（12月），埋蔵文化財研究集会（1月），低湿地遺跡研究会（3月）

(3) 研究発表他

阿部芳郎

「器体構造からみた縄文土器と弥生土器」考古学研究会例会（3月）

松木武彦

「山陽の前期古墳と鏡」埋蔵文化財研究集会（8月）

(4) 論文・資料報告

阿部芳郎

『縄文時代研究事典』東京堂出版（共著）

富権孝志

『縄文時代研究事典』東京堂出版（共著）

松木武彦

「吉備の蓋形埴輪—器財埴輪の地域性研究に関する予察—」『古代吉備』16号

「古墳時代の武器・武具および軍事組織研究の動向」『考古学研究』41-1

「1993年の考古学界の動向—古墳時代・西日本」『考古学ジャーナル』375号

山本悦世

「各都道府県の動向 岡山県」『日本考古学年報45』日本考古学協会

5 日誌抄

1994年		建築課と津島岡大遺跡第13次調査について打ち合わせ
4月1日	岩崎志保助手、光右鳴巳助手、吉川桜子技術補佐員着任	10月6日 津島岡大遺跡第13次調査開始
	第1回月例会議	11月1日 第7回月例会議
	・平成6年度事業計画・予算案	11月25日 津島岡大遺跡第12次調査終了
5月9日	第2回月例会議	11月30日 津島岡大遺跡第13次調査中断
	・調査報告	12月8日 第8回月例会議
	・報告書作成進行状況	12月14日 木器処理、PEG溶液濃度を50%に上げる
5月31日	木器処理第2期分準備開始	12月15日 センター建物内ワックスかけ
6月6日	運営委員会開催	12月27日 大掃除
	・平成5年度事業報告	12月28日 御用納め
	・平成6年度事業計画	
	・平成6年度予算案	
6月9日	第3回月例会議	1995年
6月16日	事務局第一会議室展示コーナー展示入れ替え	1月4日 仕事始め
6月22日	管理委員会開催	第9回月例会議
	・平成5年度決算について	1月19日 運営委員会開催
	・平成6年度予算について	・発掘調査経過報告・助手の採用及び退職について
6月23日	『津島岡大遺跡4』発送	1月25日 管理委員会開催
6月28日	木器処理開始（PEG溶液濃度20%）	・教官等の人事について
7月18日	第4回月例会議	・埋蔵文化財発掘事業経過について
7月22日	臨時会議	2月6日 第10回月例会議
	・津島岡大遺跡第12次調査の今後の予定・同第13次調査の期間試算について	木器処理、PEG溶液濃度を60%に上げる
7月28日	農学部動物実験施設に関する対応協議	2月28日 構内遺跡調査研究年報11納品
8月30日	博物館学実習受講生32名、3班に分かれて発掘作業・土器注記・土壤洗浄等を行う	3月1日 年報11・センター報12分発送
9月5日	第5回月例会議	3月3日 第11回月例会議
9月7日	博物館火葬終了	・調査報告・報告書作成進行報告・センター報部数について
9月17日	津島岡大遺跡第12次調査現地説明会	3月8日 建築課と農学部動物火葬施設試掘調査について打ち合わせ
9月21日	運営委員会開催	3月13日 農学部動物実験施設試掘調査開始（～15日終了）
	・福利厚生施設北丁字定地の発掘調査について・津島岡大遺跡第12次調査の経過報告・技術補佐員の採用	3月20日 木器処理、PEG溶液濃度を65%に上げる
9月28日	第6回月例会議	3月31日 助手阿部・宮澤、技術補佐員松本退職、松木、文学部考古学研究室へ異動
	・津島岡大遺跡第13次調査について	
	木器処理、PEG溶液濃度を40%に上げる	
10月3日	松本哲郎技術補佐員着任	

6 1994年度までの遺物保管状況

(1) 遺物収蔵量（表2）

1995年3月31日における本センターの遺物収蔵量は表2に掲げるとおりで、約30リットル取納のコンテナに換算して1686箱である。発掘調査では、津島岡大遺跡第12次調査（図書館）でコンテナ71箱分、同遺跡第13次調査（福利厚生施設北）で2箱分の遺物が出土している。13次調査については1995年度に継続の調査である。このうち第12次調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての溝から木製遺物が多く出土した。一方、試掘・立会調査においては、いずれも遺物は少なく、昨年度までの遺物量と大差はない。

これらの遺物は今後の整理分析作業により最終的な収納形態を整えるため、箱数の増加が見込まれる。

(2) 遺物の保存処理

本センターでは1992年度から構内遺跡から出土した木製品について、PEG 含浸による保存処理を行っている。第1期保存処理は1992年7月から1993年11月まで行われた。今年度は第2期保存処理を6月から開始した。濃度の上昇工程は以下のとおりである。

1994年6月28日 20% 9月28日 20%→40% 12月14日 40%→50%

1995年2月6日 50%→60% 3月20日 60%→65%

PEG 濃度は低濃度のうちに時間をかけて含浸させることが必要である。そのため濃度60%までは半年の期間にわたって、1工程10%毎に上げていった。濃度60%からは遺物の歪み・亀裂に留意するため、約1カ月毎に5%上昇させることとしている。3月に65%に上げ、以後1995年度に継続する。処理にあたっては基準資料を同時に処理装置内に入れ、重量変化を確認している。最終的には1995年12月に処理を完了する予定である。

また第1期の保存処理を完了した木製遺物については、処理後の法量計測を行った後、ポリシーラーで密封し、保管することとした。これらについては保管場所が定まっておらず、今後有効な保管方法を決め、保管場所を確保する必要があり、収納面積の増加が見込まれる。

(岩崎)

表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所蔵	種類	地 調 査 名 称	箱 数 (1箱: 約30L)					備 考 主要時期・特徴遺物	文 獻	
			總 数	土 器	石器	木器	その 他	サンプル		
医病	発掘(鹿田第1次調査(外来診療棟))		606	491	6	60	1	50	弥生中期～巾・近世 短甲状・櫛状木器等	⑦
"	"	鹿田第2次調査(NMR-CT室)	116	99	3	20	ガラス 鉄 28	3	弥生後期～巾世・田舟・木筒等	"
医病	"	鹿田第3次調査(校舎)	131	36		99		5	古代～中世	⑩
"	"	鹿田第4次調査(配管)	3	2				1	古代・鹿角製品	"
医病	"	施印第5次調査(管理棟)	119	79	1	20		19	弥生後期～巾・近世	⑧
ア	"	津島6次調査 (アイソトープ総合センター)	30	29.5	0.5				小豆・青銅製鏡	⑨
全	ク	津島岡大第1次調査(NP-1)	4				4		弥生中期～古代	③
農	"	津島岡大第2次調査 合併処理槽 排水管	18		1			4	織文晩期～弥生前期	④
学生	"	津島岡大第3次調査 (男子学生寮)	71	49	10	2		10	織文後期～弥生・古代～近世 石製指輪・蛇頭状土器片	⑨
"	"	津島岡大第4次調査 (屋内運動場)	1	1					織文晩期～弥生前期 (試掘調査遺物を含む)	⑥
大自	"	津島岡大第5次調査 (大学院自然科学研究科棟)	89	55	2			32	織文後期～弥生・古代～近世 耳栓・木製櫛(織文)	⑩
T	"	津島岡大第6次調査 (生物応用工学科棟)	63	30	1	22		10	織文後期～近世 人形木器・アンペラ	⑪
"	"	津島岡大第7次調査 (情報工学科棟)	13	7	1			5	織文後期～近世	"
全	ク	津島岡大第8次調査 (遺伝子実験施設)	14	12.9	0.1			1	織文後期～近世	⑫
工	"	津島岡大第9次調査 (牛体機能応用工学科)	258	35		3		220	織文後期～近世	⑬
全	ク	津島岡大第10次調査 (保健管理センター)	55	40		5		10	弥生前期～近世	⑭
"	"	津島岡大第11次調査 (総合情報処理センター)	4	2				2	織文後期～近世	"
"	"	津島岡大第12次調査(図書館)	71	40	1	20		10	織文後期～近世	⑮
"	"	津島岡大第13次調査 (福利厚生施設 北)	2	2					近世	⑯

所属	種類	地 調 金 名 称	箱 数 (1箱: 約30ℓ)					備 考 主要時期・特殊遺物	文 獻 番 号
			總 数	土 器	石器	大器	その他のサンプル		
医病	試掘	鹿田駄車場	1	1				弥生～中世	(5)
学生 教育	"	津島北 男子学生寮 研究棟	1	0.7	0.3			绳文後期～弥生前期	"
大自	"	自然科学研究科棟	1	1				绳文後期～弥生前期	(6)
事	試掘	津島 外国人宿舎(土牛)	1	1				绳文～中世	(8)
理	"	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3				中・近世	"
教養	"	津島南 "	0.7	0.7				绳文・中世	"
T.	"	津島北 校舎	1	1				绳文～近世	(9)
農業	"	津島南 動物・遺伝子実験施設	0.7	0.7				绳文～弥生、中・近世	"
事	"	津島南 國際文化会館	0.3	0.3				中世	"
大自	"	津島北 合併処理場	0.2	0.2				中・近世	(8)
学生	"	津島南 学生合宿所	0.4	0.2			0.2	中世	"
教育	"	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3				绳文	"
岡	"	岡古館	0.8	0.8				古墳～中世	"
学生	"	津島南 学生合宿所ポンプ機	0.1	0.4				绳文～中世	(8)
資生	"	倉 敷 資源生物科学研究所	0.1	0.1				近世	"
ア	"	鹿 川 アイソトープ総合センター	1	1				中世～近世	"
事	"	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5				弥生?～中世	"
農	"	津島南 動物実験施設	0.1	0.1				绳文?～近世	(8)
全	立会	'83年度	2	2				分銅形土製品	(1)
"	"	'84年度	1	1					(2)
"	"	'85年度	1	1					(5)
"	"	'86年度	0.5	0.5					(6)
"	"	'87年度	0.5	0.5					(6)
	分布	'89年度 三朝・本島	0.3	0.3					(9)
全	立会	'91年度 '92年度	0.3	0.3					(9)
"	"	'93年度 '94年度	0.1	0.1					(9)
総 箱 数			1686.5	1030.4	26.9	246	1	382.2	

※文献番号は附表3・4に対応する。文献63は木年報12を指す。

第3章 1994年度活動のまとめ

本年度は助手2名と技術補佐員1名を加え、稻田孝司センター長以下、助手6名、技術補佐員1名の新たな体制で業務に臨むことができた。

発掘調査は津島北地区で2件を行った。昨年度末から開始した図書館建設予定地における津島岡大第12次調査は発掘面積が約1800m²と、津島キャンパスでは人規模な調査となつた。調査地点は高高地から低湿地へと向かう途中の地形に相当する。縄文時代後期から弥生時代にわたってはやや起伏に富む地形であったものが、古墳時代から徐々に造成が行われ、平坦地へと変化していく状況を把握できた。また弥生時代以降、明治時代までの各時期の水田も検出されたほか、弥生～古墳時代にかけての溝が多数検出され、このうち弥生時代後期の大溝中からは多量の木器も出土した。福利厚生施設（北）建設予定地の津島岡大第13次調査は、予算との関係で今年度は2ヵ月間のみの調査となつた。今年度の成果としては明治時代の耕作面が検出されたほか、弥生時代～古墳時代に大規模な溝の存在が確認されている。図書館予定地の大溝との関連も含め、溝の性格の把握など、来年度の調査成果が期待される。

そのほか農学部動物実験施設予定地の試掘調査や、立会調査も随時行われ、構内の各所で土層堆積状況等を確認する機会を得られた。連絡の不備によるトラブルは減少してはきたものの依然として課題である。

室内の整理作業の成果としては『津島岡大遺跡5』の刊行がまず挙げられる。1990年度に実施された遺伝子実験施設・合併処理層予定地における発掘調査成績の報告である。遺伝子実験施設予定地は高高地部分にあたり、縄文時代のが址、弥生時代の各時期の溝などが検出された。この調査は津島キャンパスの西部においては最初のまとまった調査であり、今後の調査・分析の有効な指針を得ることができた。定期刊行物では構内遺跡調査研究年報11、センター報12・13号が予定通り刊行された。年報11には岡田文男氏による津島岡大遺跡第5次調査出土の堅櫛・鹿田第3次調査出土刀子に関する論考を附録として掲載した。

木製品の保存処理作業は、第1期分の整理を終了し、6月より第2期分のPRG含浸処理を開始した。第1期分木器の処理後の状況は良好で、保存処理の有効性を改めて確認した一方、収納・保管について現在は仮の状態であり、今後検討すべき課題である。

本年度は人員増もあり、充実した活動成果を得られたと思う。今後も発掘調査成績の公開など啓蒙活動を続け、学内外に対して埋蔵文化財の保存・活用に関する理解を深めてもらうための一歩としていきたいものである。

（岩崎）

附 表

附表1 1982年度以前の構内主要調査(1980~1982年度)

年度	調査地区名	種類	所属	調査名称	調査組織	調査面積(cm ²)	文献	備考
1980	龜山	立会	歯	同附属病院棟新設	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 BD26	"	農	寄宿舎新設	"			
	津島北	"	文政	介保処理埋設 施設	"			
	津島南 BD09 BC09~11	"		基盤整備(共同蔵取付)	"			
	津島南 BD~BE04~07	"		陸上競技場改修 (舗水管理設)	"			
	龜田	"	医病	高気圧治療室新設	"			
	"	"	"	動物実験施設新設	岡山県教育委員会		試掘調査をせず破壊 現存盤面等の調査	
	"	"	"	病理解剖用器機保管庫新設	岡山県教育委員会			
	"	"	"	運動場改修	"			
1982	津島 AW06~10 AW05~14 AX08,BD07 BE10	試掘		排水基盤整備	"		津島AW14区で弥生時代 包含層確認、発見	
	小橋法目黒 津島北 AW14	発掘	文政	排水管集中槽(NP-1)埋設	岡山大学	24.0	③<津島同大第1次調査>	
	津島南	試掘	学生	武道館新設	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北AY15~16	"	法科	校舎新設	"	7.0		
	龜田	"	医	標本保存庫新設	岡山県教育委員会	8.0		
	"	"	医病	外来診療棟新設	岡山市教育委員会	4.0	2	
	"	立会	医	動物実験施設開通排水 管・ガス管理設	岡山県教育委員会		1	
	龜田 AE~AF22 AE22~28	"	衛	電気ケーブル埋設	岡山市教育委員会 岡山人文学埋蔵文化 財調査室			

※文献1 児玉真一「岡山人医学部附属病院動物実験施設新設工事に伴う排水管設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

2 河本 清「岡山大学医学部附属病院外來診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会

③番号は附表3の番号に対応する。

附表2 1993年度以前の構内主要調査（1983～1993年度）

附表2-（1）発掘調査

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名稱	調査期間	面積	概要	文献
2	1983	9	鹿田	AL～BD28～40	医病	外來診療桿新井 〈鹿田第1次調査〉	7.27～11.22 '84.1.9～3.31	2188	弥生時代中期後半～中・近世集落址	⑦
3	1983	10	鹿田	BG～B118～21	医病	MRI-CT検査新井 〈鹿田第2次調査〉	8.1～12.30	176	弥生時代後期～中世集落	⑦
10	1983	11	津島南	BE14-18 BF17-18 BG14 BH14-15	農	排水管埋設 〈津島岡大第2次調査〉	'84.1.9～3.5	285	縄文時代晚期～弥生時代前期集落址	④
10	1983	12	津島南	BH13	農	合併処理槽埋設 〈津島岡大第2次調査〉	11.14～11.22 '84.1.9～3.5	276	縄文時代晚期～弥生時代前期集落址	④
2	1984	3	鹿田	AL～BD28～40	医病	外來診療桿新井 〈鹿田第1次調査〉	4.1～8.31	2188	弥生時代中期後半～中・近世集落址	⑦
31	1986	1	鹿田	CY～CU27-28 CT～CY19～27 CX～DD16～25 DD～DG22-23	医病	校舎新井 〈鹿田第3次調査〉	6.2～11.29	2390	古代～中世の集落址	⑨
36	1986	2	津島北	AV00 AW00-01	学生	男子学生寮新井 〈津島岡大第3次調査〉	12.1～'87.3.31	1550	古代～近代の水田址	⑩
38	1986	3	津島北	BP-BG09	学生	屋内運動場新井 〈津島岡大第4次調査〉	'87.1.19～1.22	70	弥生時代前期溝、中世河道	⑥
36	1987	1	津島北	AV00 AW00-01	学生	男子学生寮新井 〈津島岡大第3次調査〉	4.1～6.18	1550	縄文晚期～弥生の集落址	⑩
36	1987	1	津島北	AV00 AW00-01	学生	男子学生寮新井 〈津島岡大第3次調査〉	8.24～9.5	80	縄文後期～晚期の河道	⑩
52	1987	2	鹿田	BB～BH35～42	医病	埋管桿新井 〈鹿田第5次調査〉	10.6～'88.3.2 '88.3.23～3.31	1192	弥生中期後半～中・近世集落址	⑩
54	1987	3	鹿田	DD～DF25 DG～DI27-28	医病	校舎周辺の配管 〈鹿田第4次調査〉	11.2～11.21	30	古代の河道	⑩
65	1988	1	津島北	AY06～08 AZ05-07	大自	自然科学研究科棟 〈津島岡大第5次調査〉	6.27～'89.3.19	1537	縄文後・晩期の貯蔵穴と河道 弥生～近世の水田址	⑪
67	1988	2	津島北	AV-AW04-05	工	生物応用工学科棟 〈津島岡大第6次調査〉	9.20～'89.3.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と河道 弥生～近世の溝と水田址	⑪
70	1988	3	津島北	AV-AW05-06	工	情報工学科棟 〈津島岡大第7次調査〉	10.12～'89.3.31	800	縄文後・晩期集落址 弥生～近世水田址	⑪
67	1989	1	津島北	AV-AW04-05	工	生物応用工学科棟 〈津島岡大第6次調査〉	4.1～5.31	600	縄文後・晩期の貯蔵穴と河道 弥生～近世の溝と水田址	⑪

附表

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	調査期間	面積	概要	文献
65	1990	1	沖島北	AY-AZ08	人自	自然科学研究科様 (津島岡大第5次調査)	4.3~4.21	90	古墳時代後期溝	⑩
92	1990	2	鹿田	BB-CCE7~71	ア	アイソトープ総合センター(鹿田第6次調査)	11.20~'91.3.31	690	鎌倉時代溝・井戸・建物群	⑪
92	1991	1	鹿田	BB-CCE7~71	ア	アイソトープ総合センター(鹿田第6次調査)	4.1~6.30	690	鎌倉時代溝・建物群；土器ほか：出生～古墳時代溝・土壙；土器	⑫
96	1991	2	津島南	BD18-19	農	遺伝子実験施設 (津島岡大第8次調査A地点)	7.23~12.25	650	弥生時代～近世溝等、 繩文時代土壙・土器・石器他	⑬
96	1991	3	津島南	BB13	農	(合併処理槽) (津島岡大第8次調査B地点)	7.23~12.2	140	古代～近世水田・出生土器・石器他	⑭
104	1992	1	津島北	AU~AW04	工	生体機能応用工学科様 (津島岡大第9次調査)	7.1~'93.1.29	650	繩文後・晩期の貯蔵穴と河底ほか：弥生～近世の溝と水田址	⑮
108	1992	2	津島南	BB~BC10~11	保	保健管産センター(津島岡大第10次調査)	'93.2.1~3.31	400	近世耕地・野菜ほか、 93年度に新続	⑯
108	1993	1	津島南	BB~BC10~11	保	保健管産センター(津島岡大第10次調査)	4.17~7.31	400	弥生時代後期土壙等； 弥生～古墳時代井戸・土壙；古墳時代住居址ほか	⑰
115	1993	2	津島北	AV~AW11~12	情	総合情報処理センター(津島岡大第11次調査)	9.1~'94.1.11	640	繩文後期～弥生前期窓穴状遺構、弥生中期水田址。古墳時代水田址ほか	⑱
127	1993	3	津島北	AV~AW13~14	國	国書館(津島岡大第12次調査)	'94.2.9~3.31	1472	近世～近代耕地・溝ほか、既存後に櫻模	⑲

附表2-(2) 試掘調査

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名	掘削深度	造成土厚	概要	文献
4	1983	1	津島南	BB13	農	合併処理槽予定地	2.5		弥生・前朝土器片 ('83年度免掘)	①
5	1983	2	津島南	BF17	農	排水管中間ポンプ槽予定地	3.5			①
8	1983	3	津島南	BE~BG14 BE-BH15 BE18 BF16~18	農	排水管埋設予定地	2.0		弥生・前朝土器片 ('83年度免掘)	①
11	1983	4	津島北	AW05	工	校舎新營予定地	3.0	1.0	土器片出土	①
12	1983	5	津島南	BC-BD15	事	大学事務局新營予定地	2~3	0.9	上器片出土	①

総合 番号	年度 年 月	遺跡名	調査地区	所轄	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
13	1983 6	津島南	BB10	保健管理センター新宮予定地		2~3	0.8	調査出	①
14	1983 4	津島南	BF22-23	農	農場宿舎新宮予定地	2~3	0.6	工具片出土(1987年度工事立会)	①
14	1983 7	津島南	BI16	事	津島宿舎新宮予定地	2.0	0.9	工具片出土(1987年度工事立会)	①
21	1984 1	北	HI BL30-31	医病	西病棟北側受水槽予定地	1.4	0.5~0.7	中世土器・包含層確認(盛土保有)	②
22	1984 2	北	HI CT-CL25 CZ19・20・23・24	医加	医療短期大学部校舎新宮予定地	2.7	0.8~1.0	中世・古代の遺物出土(1986年度発掘調査)	②
23	1985 3	津島北	AV-AW99~01	学生	男子学生寮新宮予定地	2~3	1.0	縄文～中世の遺構・遺物(1986年度発掘調査)	⑤
24	1985 2	津島北	AX02	教育	研究棟予定地	2.6~3.4	1.2	縄文～弥生時代土器出土	⑤
25	1985 1	津島南	BD08	教育	講義棟予定地	3.5	1.2	遺構・遺物未確認(1986年度工事立会)	⑤
29	1985 4	鹿	HI AJ33 AJ40 AJ-AK26	医病	外来診療棟環境整備工事に先立つ範囲確認調査	2.2~3	0.9~1.4	弥生～中世の遺物	⑤
35	1986 3	津島南	BF-BG09	学生	屋内運動場新宮予定地	2.4 1.2~1.7	1.1	弥生前期墓・中世河辺横川(1986年度発掘調査)	⑥
37	1986 4	津島北	AY-AZ07	大白	自然科学研究科棟新宮予定地	1.6~3.2	0.6~0.8	縄文中期～後期の遺構・遺物(1988年度発掘調査)	⑥
45	1987 4	土生	AP02	事	外国人宿舎建設予定地	2.2~2.8		近世・弥生・縄文の遺構面確認	⑧
46	1987 5	津島北	AV11	情	総合情報処理センター新宮予定地	2.0~3.0	2.0	黒色土を標高2.2m前後で確認	⑧
48	1987 6	津島北	AY09	理	身体障害者用エレベーター建設予定地	3.0~3.5	約1	近世・中世の遺物 中世・古代の水田址(継続して発掘調査に及ぶ)	⑧
49	1987 7	津島南	BD09	教費	身体障害者用エレベーター建設予定地	2.5	0.7	縄文時代・擴群を確認 縄文・中世・近世土器出土(継続して発掘調査に及ぶ)	⑧
51	1988 7	津島北	AX04-06 AW04	工	校舎建設予定地	2.0~3.5		黒色土を標高3m弱で確認 溝状遺構・水田址 縄文～近世土器出土(1988年)	⑩

附表

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
62	1988	19	津島南	BD18-19	農・ 農業	動物実験飼育施設及び遺 伝子実験施設	2.3	1.1~1.2	黒色土を標高約2.3m で確認。溝状遺構、鰐 文～中世遺物検出	①
63	1988	20	津島市	BC29	事	国際交流会館	2.5	1.2	近世・中世の遺物出土。 (1988年度工事立会)	②
77	1989	3	津島北	AZ17	大自	合併処理槽設置予定地	4.0	1.6~2.0	中世～明治の水田の蛙 跡・溝。(1989年度工事 立会)	③
78	1989	4	津島南	BD02	学生	学生合宿所予定地	2.0~3.2	1.0	鰐文晩期～赤生前期の蛙 跡・溝。(1989年度工事立 会)	④
79	1989	12	津島南	AZ-BA05	教育	身体障害者用エレベー ター	2.5	0.8	鰐文時代後～晩期の溝 込み。鰐文時代後期～ 中世土器片。(小規模発 掘、面積38.5.)	⑤
83	1989	5	津島北	AV-AW13	図	図書館新館予定地	3.0	1.4~1.6	古代水田、赤生～古代 の溝	⑥
87	1990	3	津島市	BC02	学生	学生合宿所ポンプ椅子定 地	2.5	1.1	赤生時代前期蛙跡、中 世土器片	⑦
89	1990	4	倉敷地 区		資生	資源生物科学研究所遺跡 確認調査	2.5	0.7	中世後半以降土器片	⑧
90	1990	5	龜田	BV-BZ68	ア	アイソトープ総合セン ター予定地	2.3	1.2~1.3	中世土師質土器など (1990・91年度発掘調 査)	⑨
91	1990	6	津島北	AW-AX11	事	福利厚生施設予定地	3.9	1.4~1.6	弥生～古墳時代の溝、 中世土器小片	⑩
121	1993	3	津島市	BE～BF・22～ 23	農	農学部汎用耕地実験実習 施設	1.5		中～近世耕土	⑪

附表2-(3) 立会調査

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
1	1983	13	東山		教育	附属中学校新館	4~5		シルト層中	①
6	1983	23	龜田	A0～AW22	汚泥	外水排放桿薬水配管設	1.3		弥生後期土器(分銅形 土製品)貝集積	②
7	1983	24	津島南	BC～BF18	薬	周辺排水用集中積埋設	2.5			③
7	1983	24	津島南	BC～BF18	薬	水道管埋設	1.5			④
9	1983	25	津島北	BA13	事	西門橋梁改修	2.6			⑤

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所因	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
16	1984	10	津島北 AW-AX11 AZ-BAL2-13	情	総合情報センター通信用 管路埋設	0.7~1.4	0.9~1.2			②
17	1984	15	鹿田 DB29	医病	看護婦宿古前木道管修繕	2.0	1.15	中世包含層確認 中世・ 弥生土器		②
18	1984	17	津島南 BI16	事	非常勤講師宿泊施設新設	1.6	1.0			②
19	1984	20	津島南 BI15	事	宿舎合併処理槽取付	2.0				②
20	1984	20	津島南 BI15~17	事	南北合併処理槽関係配 水管埋設	1.0~2.2	1.0	喬木・土壌検出 須恵器・ 弥生土器		②
26	1985	6	鹿田 AW~BH23 BH~B124	医病	外来診療棟関係屋外排水 管埋設	1.3~1.7	0.7~1.3	中世・弥生の遺構・遺 物確認		⑤
27	1985	13	鹿田 AK-AM43~46 AO-AT42他	医	基幹環境施備排水その 他の工事	1.0	0.8	近世土器面り検出		⑤
28	1985	14	津島北 AV06~07	工	一次元探査設および排水 管埋設	1.5~1.7	1.0~1.5	1.25mm出土		⑤
30	1985	12	鹿田 AG31 AG24 AP23	医病	基幹環境施備绿化工事 電気配線ハンドホール掘 削	1.2~1.7	0.9~1.3	中世包含層・ピット		③
32	1986	9	鹿田 BI~BN45	医	排水・污水管改修	0.8~1.3	0.8			⑥
33	1986	12	津島南 BB08~09	教養	校舎新設	2.3	1.3	中・近世土器・籌		⑥
34	1986	13	鹿田 CL28~CW28	医病	校舎新設設備	0.5~1.2	0.8~0.9			⑥
39	1986	20	津島北 AV16~17	文	グランド改修	3.5	1.5			⑥
40	1986	21	津島南 BG08	学生	ハンドボルコート新設	0.2~2.0	0.8	黒色土壁		⑥
41	1986	22	津島北 AX16	文	動物実験室新設	0.95		造成土内		⑥
42	1986	24	鹿田 CL~CR12 CR~CX13 CX~DA14	医病	漫岸及び回障工事	2.0	0.8~1.0	中世包含層		⑥
43	1986	26	津島南 BF07~08	教養	校舎新設に伴う電気配管	1.8	0.9	中世包含層		⑥
44	1987	8	鹿田 BC37	医病	管理棟新設に伴う基礎杭 確認	2.5		弥生時代包含層・遺構 確認		⑥
47	1987	10	津島北 AW09	理	身体障害者用エレベー ーター設置に伴う污水管移 設	1.2~1.6	1.0前後			⑥
50	1987	4	上生 AM02~03	事	上生宿舎屋外排水管改修	0.7	0.6			⑥
51	1987	16	津島北 AW02	学生	馬場東糸水管修理	2.0	0.95	谷部分		⑥
53	1987	18	津島南 BP22~23	農	農場施設新設その他の工事	1.8	1.25			⑥

附表

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
55	1987	17	鹿	田 CW14~17	灰垣	校舎新營 配管	1.3	1.16	中世水田附	⑥
56	1987	18	津島南	BG22	農	農場施設新宮合併處理槽	3.6	1.2		⑥
57	1987	18	津島南	BF17~21	農	農場施設新宮電気	0.7~1.5	1.2		⑥
58	1987	18	津島南	BF22	農	農場施設新宮排水	3.0	1.3		⑥
59	1987	23	鹿	田 CE-C156-57	医	動物実験施設焼却炉	0.3~1.2	0.8		⑥
60	1988	7	津島北	AY11-AZ11	情	情報処理センター通貨線付設	1.2	0.8~0.85		⑩
64	1988	10	津島北	AZ06	人内	大学院新營に伴う電柱架設	2.3	0.8		⑩
66	1988	17	津島南	BP-BG10-11	敷蓋	テニスコート夜間照明施設	2.2~1.4~1.5	1.5	黒色土を表土下約2mで確認 西に向かう落ちが推定される	⑩
68	1988	20	津島南	BB25~26	事	国際交流会館 電柱架設	1.7~1.9	1.0	以下は灰色粘土	⑩
69	1988	19	津島南	BC26	事	国際交流会館 本体部分	1.0~2.4~2.9	1.5		⑩
71	1988	23	津島南	BB26	事	国際交流会館 合併処理槽	2.2	1.3		⑩
72	1988	32	津島北	AB09~10	T.	職械工学科・精密応用学科 実験棟電気改修	1.4~1.6	1.4		⑩
73	1989	7	津島北	AZ09 BA-BB09	大白	自然科学研究科棟新營 電柱架設	1.8~2.2	1.0		⑩
74	1989	8	津島北	AZ08	大白	自然科学研究科棟新營 工事用道路	1.4		弥生後期水田 近世溝検出	⑩
75	1989	10	津島北	AB04~05	工	牛乳加工工字棟新營 壁 柱架設	1.5~1.9	0.7~1.2		⑩
76	1989	12	津島北	AV06	工	情報工学科棟地下部分剥 削	6.0		標高-0.5mまで削削 造物無	⑩
80	1989~46	鹿	CE30-37-44 CJ-CX45 CL28-29	医病	旧管理棟地盤整備 外灯基礎掘削	1.2~1.5	0.7~1.0	中世層確認	⑩	
81	1989~21	津島北	AY17	大白	合併処理槽 地質調査	2.3	2.0		⑩	
82	1989~18	津島南	BC02		市道駁幅補償工事 学生 合宿所新營	1.2	1.2		⑩	
84	1989~23	津島北	AY17	大白	合併処理槽 本体部分剥 削	3.0		(1989年度試掘調査)	⑩	

附表

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	造成土厚	概要	文献
85	1990	12	津島北	AV04~10		岡山市造本町津島東線拡幅に伴う補償工事Ⅰ 電柱移設	0.4~3.0	0.6~1.4	黒色土層 条里溝？	⑩
		13								
86	1990	10	津島北	BD03~04	敷養	グラウンドシャワー新設	1.5~1.2	0.9~1.2	条里名残？	⑩
		11				宮				
88	1990	20	津島北	BC02~04 BD03~04		岡山市造本町津島東線拡幅に伴う補償工事Ⅱ 学生宿所給排水管設置	1.3	1.2	GL~2.3mで黒色土層	⑩
93	1990	36	津島南	BB14	事	事務局敷地内排水溝修繕	0.3~1.5	0.8		⑩
94	1990	37	津島北	AV01~03AT03		岡山市造本町津島東線拡幅に伴う補償工事Ⅲ	0.7~1.5	0.7~0.8	東端で条里の名残？	⑩
95	1991	9	津島南	BC18	遺	防火用水敷き	2.0	0.8	以下基盤層まで 遺物出土	⑩
97	1991	14	津島南	BC18	事	津島地区甚幹整備(電気)配管	0.7		GL~0.5mで明治層上面	⑩
98	1991	21	鹿田	CT44	医	水道管破裂	0.9	0.9	近世層上面まで	⑩
99,1991	17	津島南	BB16		事	津島地区甚幹整備(電気) ハンドホール・アース板	1.7~1.8	0.5	明治層~淡灰色粘土層	⑩
100	1991	16	津島	AV08~09 AX12 AW~AY05 BF16	事	津島地区甚幹整備(電気) ハンドホール	1.1~1.3	1.0前後	近世層上面	⑩
101	1991	19	津島北	BD15	事	津島地区甚幹整備(電気) アース板埋設	1.7	1.0	GL~1.5mで黒色土上面	⑩
102	1991	40	津島南	BC-BE-HF12	事	南北道路街灯設置	1.5		GL~1.4mで古代層確認	⑩
103	1991	35	鹿田	BK~BX43~54	医	医学部甚幹整備 木銀灯設置	1.0~1.5		GL~1.0mで近世層上面、-1.3mで中世層	⑩
105	1992	15	津島南	BD18~19	遺	遺伝子実験施設ハンドホール設置	0.7~1.5		GL~0.75m~1.1mで明治層上面 織文後期層まで、2本検出	⑩
106	1992	25	津島南	BG12	事	仮設電柱設置	1.2		GL~1.1mで明治層上面	⑩
107	1992	28	鹿田	BG65 BG-BC66 BG67~72 BW-C41	ア	アイソトープセンター渠	1.4~1.5		GL~0.9mで明治層上面、中世溝1	⑩
						水橋・ヒューム管設置				
109	1992	33	津島北	AV09	工	ボイラー系給水管改修工事	1.2		GL~1.1mで明治層上面	⑩
110	1992	34	津島北	AV12	市	附属図書館北側駐車場整備	3.0	1.7	造成土以下粘土層	⑩
111	1992	37	津島南	BB-BD-BE12	事	下水道事業に関する地質調査	1.1~1.5	1.1~1.4	明治層まで	⑩

附表

総合番号	年度	番号	遺跡名	調査地区	所属	調査名称	掘削深度	形成土厚	概要	文献
112	1992	40	鹿田	CC74~C172	医	動物実験施設西側塗装塗 偏	1.1~1.3	1.1	近世層?まで	④
113	1992	41	鹿田	C173	医	テニスコート脇電柱設置	1.2	1.0	古代土器1点	④
114	1993	6	津島北	AU10	埋文	沈殿槽設置	0.85	0.85	灰褐色粘質土層上面	④
116	1993	13	津島北	AV04	工	生体機器応用工学科棟外 牌工事	0.5~1.0	0.7~0.8	明治層・近世層確認	④
117	1993	14	津島北	AZ03	教	電柱設置	1.0	0.6~1.0	明治層まで	④
118	1993	17	津島南	BD~BC- 10~12	保	保健管理センター新営に 伴う外構工事ほか 電気 配線	1.8	0.6~0.7	明治層、以下保健管理 センター本調査と同じ 層序。黒褐色土は -1.15~-1.7m、その直 下に基盤層	④
119	1993	23	津島北	BA07	亭	沖島地区基幹幹線 R1 共同利用施設排水処理施 設他設置	3.2		明治～中世層 暗褐色 土層確認 古代溝？ ：縄文晚期？上器片1	④
120	1993	28	沖島南	BD~BE13	事	津島地区環境整備 南北 道路沿水路ボックスカル バート敷設	1.5	1.0	明治層、中世～近世層 を確認	④
122	1993	39	津島南	BB05~07 41	学生	野球場バックネット他改 修	2.0~3.2	1.0	-1.2~2.0m付近で黒 色土を確認；以下は黃 色砂～青灰色粘土	④
123	1993	18	沖島南	BC11	保	保健管理センター新営に 伴う外構工事ほか 電柱 設置	1.2	0.8	明治層・近世層確認	④
124	1993	33	沖島南	BD~BG- 12~13	事	津島地区環境整備 水道 管設置	1.8	0.5~1.2	明治層、以下近世～中 世層一部で暗褐色土 層を確認	④
125	1993	19	沖島南	BB11	保	保健管理センター新営に 伴う外構工事ほか 屋根 改修	1.1	0.8	明治層、確認 甕生土・ 器片	④
126	1993	34	津島南	BD~BE- 12~13	事	津島地区環境整備 信号 機設置	1.6	1.0	明治層、以下近世～中 世層一部で暗褐色土 層	④
128	1993	49	鹿田	DG68~75	医	テニスコートブロック塀 他改修	0.9~1.0	0.8~0.9	明治層確認	④

※発掘調査・試掘調査については全てを、立会調査については主要なもののみを対象としている。

総合番号は図12~15に対応する。また文献番号は附表3・4に対応する。

附表3 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡調査研究年報 1 1983年度	1985年2月28日
②	岡山大学構内遺跡調査研究年報 2 1984年度	1985年3月30日
③	岡山大学津島地区小橋法甘黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月7日
④	岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ(農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月31日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報 3 1985年度	1987年3月31日
⑥	岡山大学構内遺跡調査研究年報 4 1986年度	1987年10月31日

附表4 埋蔵文化財調査研究センター刊行物

番号	名 称	発行年月日
⑦	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊	1988年3月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報 5 1987年度	1988年10月31日
⑨	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
⑩	鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第4冊	1990年3月31日
⑪	岡山大学構内遺跡調査研究年報 6 1988年度	1989年10月14日
⑫	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
⑬	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第3号	1990年2月
⑭	岡山大学構内遺跡調査研究年報 7 1989年度	1990年11月20日
⑮	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
⑯	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第5号	1991年3月
⑰	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
⑱	岡山大学構内遺跡調査研究年報 8 1990年度	1991年12月10日
⑲	津島岡大遺跡 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第5冊	1992年3月31日
⑳	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
㉑	岡山大学構内遺跡調査研究年報 9 1991年度	1992年12月21日
㉒	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
㉓	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
㉔	鹿田遺跡 3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊	1993年3月31日

附表

番号	名 称	発行年月日
㊂	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月20日
㊃	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号	1993年11月
㊄	津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第7冊	1994年3月31日
㊅	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号	1994年3月
㊆	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第12号	1994年10月
㊇	岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度	1995年2月
㊈	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第13号	1995年3月
㊉	津島岡大遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第8冊	1995年3月31日

1994年度までの調査地点

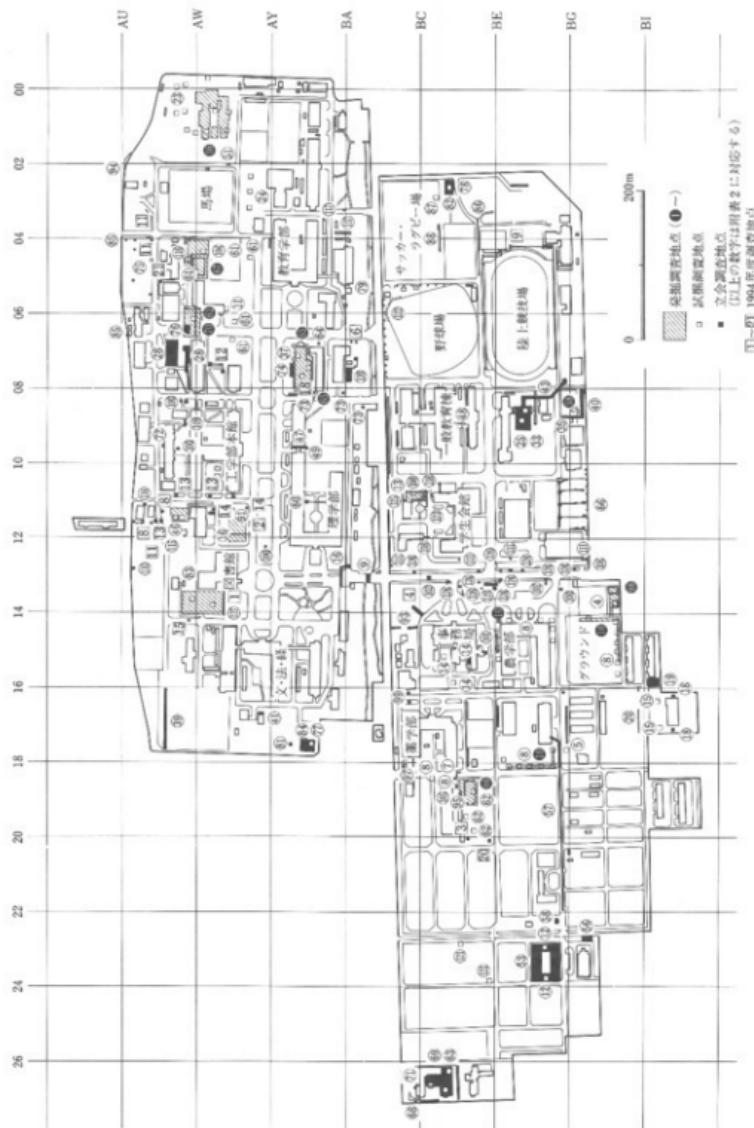


図14 1994年度までの調査地点(1) 津島地区 (縮尺1/7,500)

1994年度までの調査地点

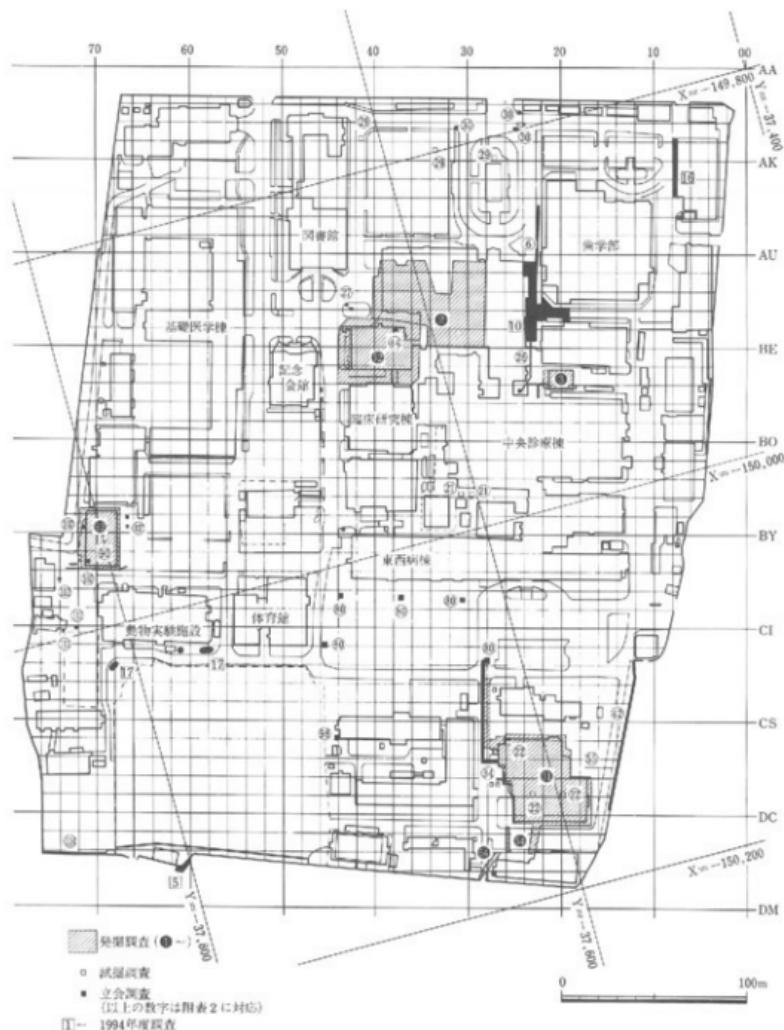


図15 1994年度までの調査地点(2) 鹿田地区 (縮尺1/3,000)

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

(設 置)

第1条 岡山大学（以下「本学」という。）に岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(目 的)

第2条 センターは、本学の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護をはかることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に關すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に關すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に關すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に關する重要な事項

(自己評価)

第2条の2 センターは、岡山大学学則（昭和26年岡山大学規程第32号）第1条の2の定めるところにより、センターの係る点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行うものとする。

2 前項の自己評価を行うため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。

3 自己評価委員会に関する規程は、別に定める。

附 則

この規程は、平成5年2月25日から施行する。

○岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価を行うこととするため。

(センター長)

第3条 センターにはセンター長を置く。

- 2 センター長は、専門的知識を有する本学の教授の中から学長が命ずる。
- 3 センター長は、センターに関する業務を掌理する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(調査研究室)

第4条 センターにセンターの業務を処理するため調査研究室を置く。

- 2 調査研究室に室長、調査研究員及びその他必要な職員を置く。
- 3 室長は、専門的知識を有する本学の教官の内から学長が命ずる。
- 4 室長は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。
- 5 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 6 調査研究員及びその他の職員は、上司の命を受け、センターの業務に従事する。

(調査研究専門委員)

第5条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るために、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。

- 2 専門委員は、本学の教官の内から学長が命ずる。
- 3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理委員会)

第6条 本学に、センターの管理運営の基本方針を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管理委員会」という。）を置く。

- 2 管理委員会に関する規程は、別に定める。

(運営委員会)

第7条 センターに、センターの運営に関する具体的な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

(事務)

第8条 センターの事務は、施設部企画課において処理する。

(難則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この規程は、昭和62年11月26日から施行する。

2 この規程施行後最初に任命されるセンター長、室長及び専門委員の任期は、第3条第4項、第4条第5項及び第5条第3項の規定にかかわらず、昭和64年3月31日までとする。

○設定理由

岡山大学の敷地内の埋蔵文化財の発掘調査などの業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図るために、学内施設として、新たに岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを設置すること及びその組織等必要な事項について定めるため。

2 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第6条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会（以下「管委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針その他重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 管理委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 学長
- 二 各学部及び教養部長
- 三 自然科学研究科長
- 四 資源生物研究所長
- 五 附属図書館長
- 六 各附属病院長
- 七 地球内部研究センター長
- 八 学生部長
- 九 医療技術短期大学部主事
- 十 事務局長
- 十一 埋蔵文化財調査研究センター長

(委員長)

第4条 管理委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、管理委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(幹事)

第6条 管理委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(庶務)

第7条 管理委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

附 則

この規程は、昭和62年11月26日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの管理運営の基本方針等を審議するために岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会に関し、必要な事項を定めるため。

3 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第7条第2項に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する具体的な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の号に掲げる委員で組織する。

- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
- 二 本学の教授のうちから学長が命じた者若干名
- 三 センターの調査研究専門委員から学長が命じた者1人
- 四 センターの調査研究室長
- 五 施設部長

2 前項第2号の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を認め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 運営委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

附 則

1 この規程は、昭和62年11月26日から施行する。

2 この規程施行後最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第2項の規定にかかるわざ、昭和64年3月31日までとする。

○設定位

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの運営に関する具体的な事項を審議するためにおく岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会に関し、必要な事項を定めるため。

4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（昭和62年岡山大学規定第48号）第2条の2第3項の規定に基づき、岡山埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）に係る点検及び評価の実施に関し、必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

- 一 埋蔵文化財調査研究センター長（以下「センター長」という。）
- 二 埋蔵文化財調査研究センター調査研究室長
- 三 センターに勤務する教官のうちから若干名
- 四 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会委員のうちからセンター長が委嘱した者若干名
- 五 施設部長

2 前項に定める委員のはか、センター長が必要と認めた者を加えることができる。

(委員長)

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

(会議)

第5条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、施設部企画課において処理する。

(難則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附則

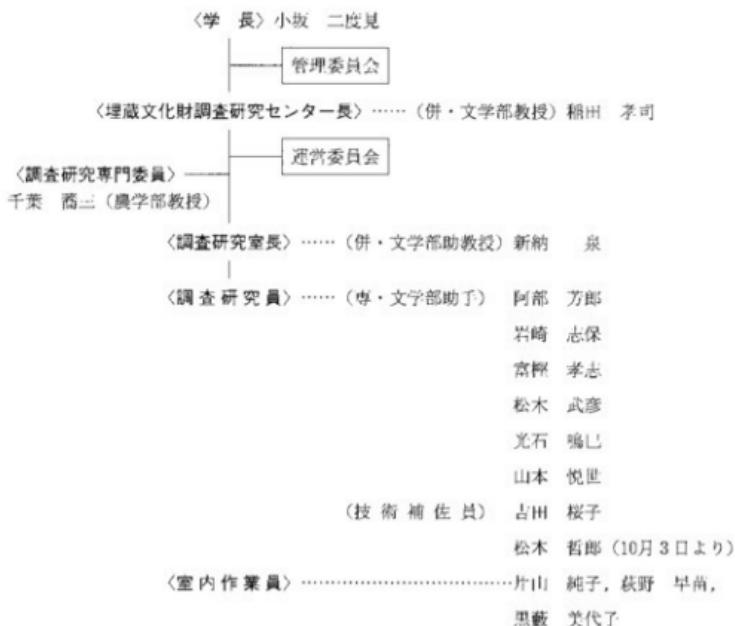
この規程は、平成5年2月25日から施行する。

○設定理由

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの研究活動等についての点検及び評価の実施に関する必要な事項を審議するために置く岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会について、必要な事項を定めるため。

1994年度埋蔵文化財調査研究センター組織

1 センター組織一覧



2 管理委員会

委員

学長	小坂二度見	文化科学研究所長	古川 隆夫
文学部長	川藤進四郎	自然科学研究科長	富永 久雄
教育学部長	木原 孝博	資源生物科学研究所長	兼久 勝夫
法学部長	早瀬 武	附属図書館長	好並 隆司
経済学部長	藤本 利射	医学部附属病院長	折田 薫三
理学部長	岩見 基弘	衛生部附属病院長	村山 洋二
医学部長	新居 志郎	地球内部研究センター長	本間 弘次
薬学部長	中井 宏之	医療技術短期大学部長	喜多嶋康一

1994年度埋蔵文化財調査研究センター組織

農学部長	榎田 純男	学生部長	松浦 正義
工学部長	中島 利勝	事務局長	伊藤 公欽
農業部長	千葉 喬三	埋蔵文化財調査研究センター長	稻田 孝司
教養部長	岡部 喬		
幹 事			
庶務部長	今川 庄造	経理部長	池本 洋一
施設部長	井内 敏雄		

審議事項

- 1994年 6月22日 平成5年度埋蔵文化財調査研究センター決算について
平成6年度埋蔵文化財調査研究センター予算について
1995年 1月25日 教官等の人事について
埋蔵文化財発掘事業経過について

3 運営委員会

委 員

文学部教授	稻田 孝司（センター長）	医学部教授	村上 宅郎
文学部教授	狩野 久	農学部教授	千葉 喬三（調査研究専門委員）
教育学部教授	高重 進	文学部助教授	新納 泉（調査研究室長）
経済学部教授	建部 和広	施設部	井内 敏雄（施設部長）

審議事項

- 1994年 6月 6日 平成5年度埋蔵文化財調査研究センター決算について
平成6年度埋蔵文化財調査研究センター予算案について
平成5年度埋蔵文化財調査研究センターの事業報告
平成6年度事業計画について
1994年 9月21日 平成6年度事業計画の追加について
附属図書館発掘調査の現況について
技術補佐員の採用予定について
1995年 1月19日 埋蔵文化財発掘事業経過について
助手の採用及び助手、技術補佐員の退職について
センター長の任期について
埋蔵文化財調査研究センター運営委員の継続について

附 編

岡山大学構内遺跡出土試料からの灰像について

松 谷 晓 了

遺跡から出土する灰を顕微鏡で観察したとき、植物の表皮細胞に類似した様々な形態の組織像が観察されることがある。植物の表皮細胞に沈積していた珪酸などの無機物が、植物体の燃焼後にも残留していることに由来するもので、灰像と呼ばれている。珪酸を多く蓄積する植物の代表がイネ科植物であるため、最も検出され易い灰像はイネ科植物の灰像であるが、この植物はイネや麦類などの主食他、人間生活に利用されることが最も多い植物でもある。従って、遺跡から出土する灰から、例えばイネの外穀や内穀を構成する長細胞の灰像によってイネの穀の灰像が、あるいはイネの仲間（イネ連）に見いだされ、イネ細胞とも呼ばれる短細胞の灰像などによって藁の灰像が検出されれば、炭化粒が見いだされなくても、イネの存在を確認することが可能となる。実際、弥生時代以降の日本の遺跡からは、イネの穀や藁の存在を示す灰像が数多く検出されている（Watanabe 1968, 渡辺1981, 松谷1983, 松谷1987他）。

岡山大学構内遺跡の試料では、鹿田遺跡第3次調査（医療技術短期大学部）の井戸跡から出土した灰からイネ穀およびイネ藁と推定される灰像を報告したことがある（松谷1990）。

今回の試料は、次の4試料である。

- 1：灰、鹿田遺跡第5次調査（管理棟）¹⁾井戸4, 2層、中世（12-13世紀）
- 2：灰、鹿田遺跡第1次調査（外来診療棟）²⁾井戸27, 3層、中世（12世紀代）
- 3：炭化物、鹿田遺跡第1次調査（外来診療棟）²⁾住居址19, 16層、古墳時代初頭
- 4：炭化物を含む土、津島岡大遺跡第7次調査（工学部情報工学科棟）³⁾炉1, 埋土、縄文時代後期

以上のように、中世の井戸から出土した灰が2点と、古墳時代の住居址から出土した炭化物および縄文時代の泥土が各1点である。

試料1：灰

試料の一部分を容器に移し、蒸留水を注いで沈殿させた砂の部分を除去し、水分を乾燥させた後、オイキットで封入した。灰像の量はあまり多くないが、イネの穀殼に相当する灰像が比較的多く認められ、そのほかにイネ細胞列などイネ藁の存在を示す灰像が認められた（写真1-2）。

試料2：灰

試料1と同様の処理を行った。試料1に比べると検出された灰像の量は多く、イネの穀殼と

考えられる灰像とイネ葉の存在を示すと考えられるイネ細胞列の他に、ヨシの稈（茎）に類似した灰像が比較的多く観察された（写真3-5）。

試料3：炭化物

試料の一部を分離し、走査型電子顕微鏡での観察を行った。細かい波状をした長細胞と先端の尖った刺毛が観察された（写真6）。この形態は遺跡の試料からしばしば観察されるものであり、形態的特徴からイネ科植物の茎であろうと思われるが、同定の手がかりとして有用な胚細胞が観察されないので、今のところ種名の特定はできない。

試料4：

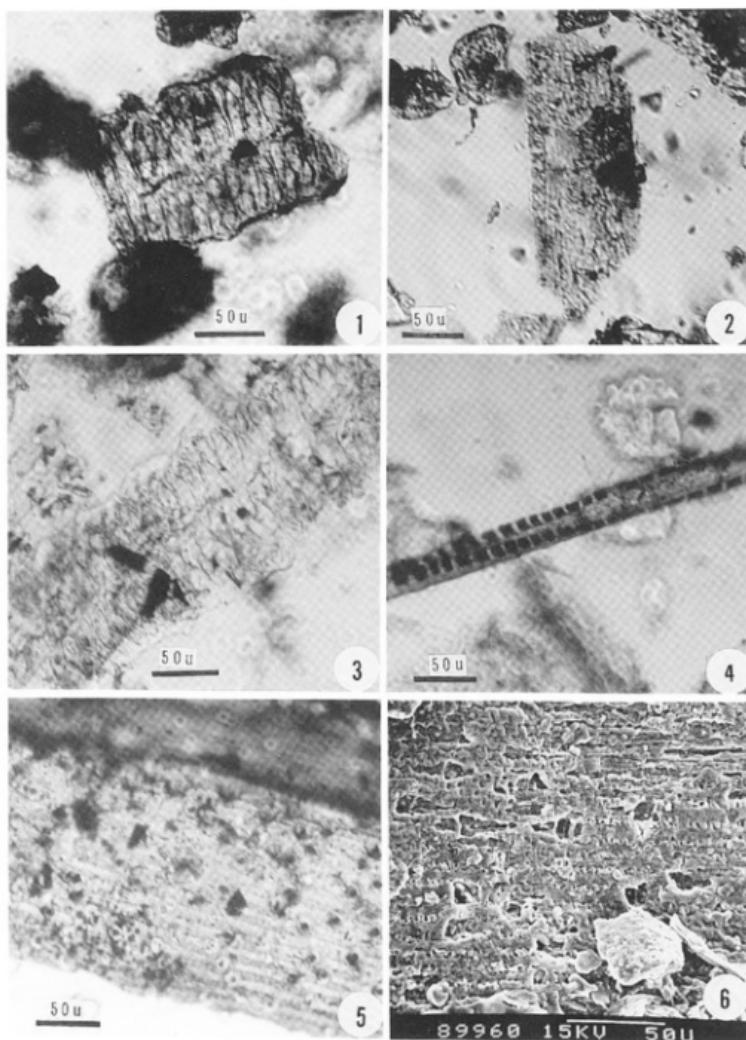
試料1や2と同様に、蒸留水を注いで砂等を除去し、乾燥させた試料を検鏡したが、灰像は検出できなかった。

以上の結果、中世の井戸跡からの試料には2点ともイネ穂とイネ葉が含まれていると推定され、2試料の内の一つにはヨシの稈（茎）も含まれていると判断される。

- 註1 「鹿田遺跡3」岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第6冊 1993 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2 「鹿田遺跡1」岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第3冊 1988 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3 「竹島岡人遺跡6」岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第9冊 1995年刊行予定 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

文献

- 松谷曉子 1983 「綾羅木遺跡の灰像分析」『綾羅木郷台地遺跡』下関市教育委員会 554-556.
- 松谷曉子 1987 「六反田遺跡出土物の灰像」『六反田遺跡Ⅲ』仙台市教育委員会 397-399.
- 松谷曉子 1990 「岡山大学構内遺跡から出土した炭化穂子と灰像について」『鹿田遺跡』 岡山大学構内遺跡調査研究報告4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 103-106.
- 渡辺直経 1981 「遺跡の灰から穀物栽培を探る 灰像による識別」『考古学のための化学10章』東京大学出版会.
- Watanabe, N. 1968 "Spodographic Evidence of Rice in Prehistoric Japan" 『東京大学理学部紀要V-3』 217-235.



写真説明

1 試料1から観察されたイネの穀殻に由来すると考えられる灰像 2 試料1から観察されたイネの葉に由来すると考えられる灰像 3 試料2から観察されたイネの穀殻に由来すると考えられる灰像 4 試料2から観察されたイネの葉に由来すると考えられる灰像 5 試料2から観察されたヨシの莖に由来すると考えられる灰像 6 走査型電子顕微鏡により観察された試料3の粗繊維

写真7 構内遺跡出土試料の灰像写真

1995年12月25日 印刷
1995年12月28日 発行

岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度

編集 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山市津島中3丁目1番1号
(086)251 7290

印刷 西日本法規出版株式会社
岡山市高柳西町1-23
(086)255 2181(代)